

大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について

( 答 申 )

令和7年5月

通学区域制度検証委員会

# 目 次

1. 答申にあたって	
○ 通学区域制度の変遷	1
○ 「通学区域制度検証委員会」の設置	
○ 「通学区域制度検証ワーキンググループ」における論点整理	
○ 「通学区域制度検証委員会」における検証	
○ 「通学区域制度検証委員会」による答申	
2. 通学区域制度の検証	
(1) 進路選択の幅の拡大	5
○ 急激な少子化	
○ 県立高校の志願の状況	
○ 地域による進路先の傾向	
○ 私立高校への進学	
○ 県外高校への進学	
○ 県全体の進学力の状況	
(2) 進路選択の理由	15
○ 高校生及びその保護者の進路選択	
○ 中学生及びその保護者の進路選択	
○ 「通信制課程」という選択肢	
(3) 通学区域制度に関する生徒、保護者の意識	20
○ 全県一区の希望の状況	
3. 魅力ある学校づくり	
(1) 通学の状況	22
○ 通学時間	
○ 通学費用	
○ 学校生活に関する保護者としての不安・負担	
(2) 魅力を高めるための学び	26
○ 学びへの期待	
(3) 学校の魅力の発信	28
○ 進路選択において有効な情報源	

4. 検証のまとめ	
(1) 今後の通学区域制度の在り方	30
(2) 今後求められる取組	31
○ 今後の県立高校の在り方の検討	
○ 魅力化・特色化の推進	
○ 大分県立高等学校入学者選抜の工夫・改善	
○ 義務教育段階でのキャリア教育や中学校での進路指導	
○ 遠隔教育の充実	
5. 最後に	38
・ 大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について（諮問）	39
・ 通学区域制度検証委員会 設置要綱	40
・ 通学区域制度検証委員会 委員名簿	41
・ 通学区域制度検証委員会 経過	42
・ 大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について（答申）	43

## 1. 答申にあたって

### (通学区域制度の変遷)

- 本県の県立高校普通科（全日制）の通学区域制度は、交通事情や経済状況の悪化中、高校教育の普及等を図ることを目的として、昭和24年に「大分県立高等学校通学区域設定規則」が制定され、14通学区域となったことから始まり、その後、いくつかの変遷を経て平成11年には、6通学区域（12分割通学区域）となった。
  
- その後、規制緩和や地方分権など国や地方の在り方に関する基本的な枠組みが大きく変化し、社会の変化に対応した新たな教育の在り方が求められる中、平成14年1月には、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、公立高校の通学区域を定める旨の規定が削除され、以降の通学区域の設定は各都道府県教育委員会の判断に委ねられることとなった。  
これを受け、学校選択の自由を保障する観点から、平成15年度には東京都・和歌山県、平成16年度には埼玉県・福井県において全県一区が導入される中、本県教育委員会は、平成16年4月に高等学校改革プラン検討委員会を設置して「高等学校の再編整備」、「通学区域制度の見直し」、「高等学校入学者選抜制度の改善」についての検討を依頼した。
  
- 高等学校改革プラン検討委員会では、高校を取り巻く県内外の各種資料と、県民アンケート調査やパブリックコメント、地域別懇談会・説明会の実施による多くの県民の意見を参考にして検討を重ね、同年12月に最終「報告書」が提出された。  
県教育委員会では、その後も詳細に審議を重ね、平成17年3月に「高校改革推進計画」を策定し、生徒一人ひとりの進路希望が達成できるよう、特色・魅力・活力ある高校づくりを基本に据え、計画を推進することとした。  
「通学区域制度」については、平成20年度入試から、多様化する生徒一人一人のニーズに対応し、自分にあった高校を主体的に選択できるよう、全日制普通科高校において全県一区が導入されている。

### (「通学区域制度検証委員会」の設置)

- 時代が令和に移り、急激な技術革新や少子高齢化の進展、地方創生への対応等に加え、新型コロナウイルスといった新たに発生する感染症等への対応など、高等学校を取り巻く状況に変化が生じてきた。そこで、本県では、高等学校教育のさらなる充実、発展を図るために、これからの時代を、たくましく生き抜いていく生徒の学びを支えるための魅力ある学校づくりに係る今後10年間の方針として、「大分県立高等学校未来創生ビジョン（以下、「ビジョン」という）」を令和6年3月に策定した。
  
- ビジョンでは、高校入学者選抜の一次入試における大分市内普通科系学科への志願倍率や中学

生、高校生やその保護者を対象としたアンケート調査などを参考に、全県一区の現状を次のように整理している。

- ・全県一区導入後、区域を越えて中学生の自由な進路選択が可能になったため、地域間の移動は一定数生じている
- ・実際の高校入試の結果から、必ずしも、大分市内の県立高校への集中が進んでいる状況にあるとは言えない
- ・中学生、高校生やその保護者のアンケート結果を見ると、学区にとらわれず、自由に自分の希望する学校を選ぶことへの期待が伺える

- 全県一区については、様々な考えがあり、社会の状況の変化や中学生の進路の多様化などを踏まえて、検証することが必要であることから、ビジョンにおいては、「地域を越えた高校進学状況や、学校の特色づくりの状況、生徒や保護者の声など、選ばれる学校づくりに関して、引き続き、現状の把握に努め、検証を行うこととする」とされている。

これを受けて、県教育委員会は、令和6年9月に「通学区域制度検証委員会（以下、「本委員会」という）」を設置し、「通学区域制度の在り方に関すること」、「地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関すること」の二点について、本委員会に諮問した。

- 本委員会は、諮問内容について、多角的・多面的に考察するとともに、地域の意見が反映されるよう、学識経験者、産業界、社会教育関係（PTA連合会）、市町村関係（市長会、町村会、市町村教育長協議会、自治会連合会）、学校関係（校長協会、私学協会等）から、16名の委員で構成されている。

#### （「通学区域制度検証ワーキンググループ」における論点整理）

- 本委員会の開催に向けては、本県の通学区域制度を議論するうえでの論点を整理することを目的とした「通学区域制度検証ワーキンググループ（以下、「検証WG」という）」を、教育庁職員及び知事部局の職員で構成し、3度にわたって協議が行われた。検証WGによる協議では、諮問の内容を踏まえて、「入試制度の在り方」「高校の魅力づくり」「教育の質の担保」の3点から、あわせて14の観点が設定され、それぞれの所属の視点から、現状が整理された。

- 検証WGによって設定された、検証の観点は、次の通りである。

- ・進路選択の幅の拡大
- ・中学校における進路指導
- ・中学生や保護者、地域への情報発信
- ・中学生の学習意欲、個性や能力の伸長
- ・高校における授業の充実、進学力の向上
- ・部活動の活性化、競技力の向上

- ・中途退学や不登校生徒の増減等
- ・通学圏の拡大・通学手段の確保
- ・通学に際しての保護者の経済的負担
- ・教育 DX
- ・教育環境の維持・整備
- ・大分県、地域を支える人材の育成
- ・地方創生の推進（地域の活性化）
- ・学校と地域（市町）との連携

### （「通学区域制度検証委員会」における検証）

- 本委員会では、これまでの経緯を踏まえつつ、検証 WG によって示された観点を参照して、客観的かつ多面的・多角的に現行の全県一区のメリットとデメリットを整理し、通学区域制度の在り方や高校の魅力づくり、教育の質を担保する方策など、これからの本県の高校の在り方を見据えて、議論を進めることとした。
- 客観的かつ多面的・多角的に現状を把握するために、「中学生の進路選択の状況」、「第一次入学者選抜の学力検査の状況」、「地域の高校の欠員の状況」、「大学等への進学状況」について制度導入前後を比較できる資料や「不登校・中途退学」「通学費等奨学金利用者」について現況が分かる資料を県教育委員会から提供いただいた。また、高校選択や通学区域制度に関して、これから進路選択をする中学生、すでに高校選択をした高校生、及びそれぞれの保護者を対象としたアンケート調査を実施した。  
これらの資料にもとづいて現状を把握するとともに、関係者の意見を聴取するなどして、4回にわたって本委員会を開催し、検証を進めた。

### （「通学区域制度検証委員会」による答申）

- 以上のような経緯のもと、本委員会での協議を踏まえ、「大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について（答申）」（以下、「本答申」という）を取りまとめた。
- 本答申では、まず「通学区域制度の検証」として、進路選択の実際について、客観的なデータの分析により、全県一区下における地域を越えた通学の状況についてまとめている。次いで、これから進路選択をする中学生やその保護者と、すでに高校選択をした高校生やその保護者のアンケート結果から伺える意識や考えを数値と自由記述をもとに整理した。  
続いて、「魅力ある学校づくり」として、普通科のみならずすべての学科において、中学生から選ばれる学校づくりが推進されるよう、中学生や高校生がどのような学びを求めているのかについて分析を行っている。

- 最後には、検証のまとめとして、大分県立高等学校における魅力ある学校の実現に向けて、通学区域制度の在り方、高校の魅力づくり、県内どの地域の高校でも質の高い教育を提供できる環境について、県教育委員会における具体的な施策に資するよう、多様な観点から検討を要する事項を挙げている。これにより、諮問内容である「入試制度の在り方」、「高校の魅力づくり」及び「教育の質の担保」への回答としたい。

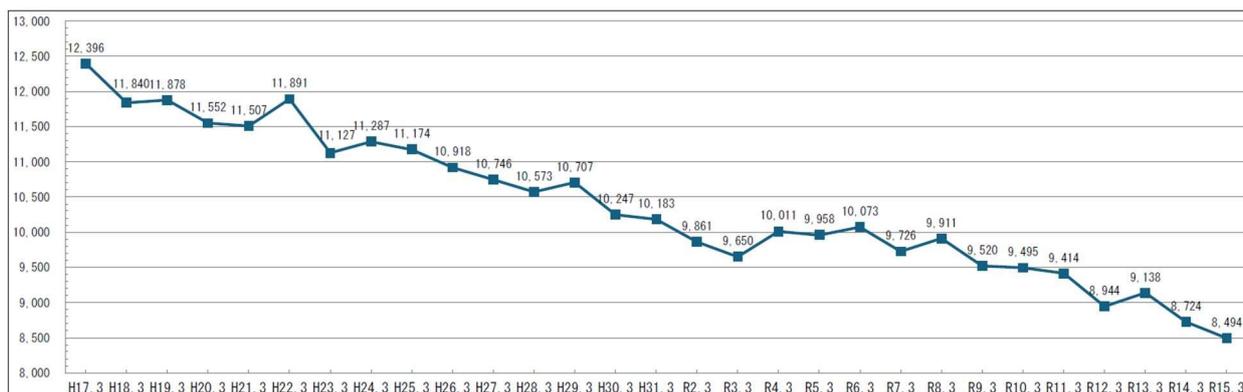
## 2. 通学区域制度の検証

### (1) 進路選択の幅の拡大

#### (急激な少子化)

- 次の【資料1】は、県内中学校卒業生数の推移を整理したものである。

【資料1】大分県中学校卒業生数の推移



(「学校基本調査」による)

- 本県における中学校卒業生数は、全県一区が導入された平成20年3月と令和7年3月とを比較すると、約1,800人の減少(16%減)となっている。これは、県立高校のクラス数では45クラス分に相当する数である。中学校卒業生数は、県全体として減少傾向にあるものの、その多寡や増減は地域や年度によって異なっている。各県立高校の定員は、各地域の中学校卒業予定者数を踏まえて策定されているが、中学校卒業生数が大幅に減少する地域にあっても、学校規模を維持する観点から、極力、定員の激減緩和が図られている。それが、地域の県立高校の定員数に対する志願者数の割合の低下や、その結果として生じる欠員に繋がっている。

### (県立高校の志願の状況)

- 次の【資料2】は、県立高校（普通科のみではなく、専門学科及び総合学科を含む）への志願状況の推移を市町村別に表したものである。

【資料2】市町村別県立高校志願者の割合の推移

	6通学区		全県一区						私学就学支援			
	H18	H19	H20	H21	H25	H26	H30	H31	R2	R3	R5	R6
大分市	82.5%		81.8%		75.2%		73.5%		72.0%		70.0%	
別府市	85.8%		81.6%		80.1%		78.3%		73.5%		66.9%	
中津市	85.8%		88.4%		82.8%		81.2%		74.4%		77.6%	
日田市	87.0%		83.9%		78.9%		74.5%		70.2%		69.6%	
佐伯市	81.5%		84.6%		75.7%		74.9%		63.4%		63.8%	
臼杵市	90.9%		90.3%		87.0%		86.1%		78.8%		76.6%	
津久見市	90.9%		88.9%		89.7%		82.3%		81.5%		78.2%	
竹田市	95.1%		90.3%		89.2%		85.4%		85.9%		81.8%	
豊後高田市	92.8%		83.8%		88.5%		92.3%		91.2%		87.9%	
杵築市	87.7%		87.1%		82.9%		84.8%		85.6%		78.8%	
宇佐市	90.0%		88.1%		87.5%		87.2%		85.9%		83.6%	
豊後大野市	93.1%		87.9%		85.5%		83.6%		79.9%		82.3%	
由布市	83.3%		83.6%		83.1%		84.3%		79.3%		78.6%	
国東市・姫島村	90.5%		91.1%		90.1%		87.6%		87.3%		88.0%	
日出町	89.0%		91.4%		83.3%		80.1%		80.0%		73.4%	
九重町	85.7%		88.6%		83.4%		82.5%		76.3%		81.4%	
玖珠町	90.4%		93.9%		85.6%		79.5%		80.7%		78.1%	
合計	85.6%		84.6%		79.6%		77.7%		74.6%		72.8%	

※ 割合は「推薦及び一次入試の延べ出願者数/中学校卒業生数」で算出

- 全県一区導入前の平成18年度と平成19年度との2か年の平均は、全県で85.6%が県立高校を志願している。その後、就学支援の導入などにより、直近の令和5年度と令和6年度との2か年平均では72.8%となっており、12.8ポイントも低下している。

中でも、大幅に低下しているのは、「別府市（18.9ポイント減）」「佐伯市（17.7ポイント減）」「日田市（17.4ポイント減）」「日出町（15.6ポイント減）」「臼杵市（14.3ポイント減）」「竹田市（13.3ポイント減）」である。

### (地域による進学先の傾向)

- 次の【資料3】は、全県一区導入直前の平成18、19年度の2か年と令和5、6年度の2か年とを比較して、中学生の進路先の傾向の変化を市町村別にまとめたものである。

【資料3】各市町村における進学割合の傾向（全県一区導入直前と現在との比較）

	同地域・近隣地域への進学		大分市内への進学		県外への進学
	県立高校	私立高校	県立高校	私立高校	
大分市	○臼杵市		●(H20)		◎(H31)
別府市	○杵築市(H31)	◎(H31)	◎(H20)	◎(H31)	◎(H31)
中津市		△	△	△	◎(H31)
日田市	●玖珠町(H31)	○(H20)	△	●	◎◎(H31)
佐伯市	△臼杵市	◎◎(R2)			◎◎(H31)
臼杵市	◎津久見市(H31)、●豊後大野市(H20)、△佐伯市	○(H31)	◎◎(H18)	◎◎(H31)	
津久見市	●臼杵市(H20)、◎◎佐伯市(H20)	◎◎(H31)	◎◎(H19)	△	◎(R5)
竹田市	●豊後大野市(H20)		●(R2)	◎(H21)	◎◎(H20)
豊後高田市	○宇佐市(H31)、○中津市(H21)	●(H31)	△		◎(R5)
杵築市	◎別府市(H18)		○(H21)	●(R5)	◎◎(H31)
宇佐市	◎中津市(H20)		△	△	◎(H21)
豊後大野市	●竹田市(R5)	◎(H31)	△	◎(H20)	△
由布市			●(H19)		○(H31)
国東市・姫島村	◎◎杵築市(H31)		△	●(H20)	○(H31)
日出町	○別府市(H19)、●杵築市(H20)	○(H31)	◎(H20)	◎(H31)	○(H31)
九重町・玖珠町	●日田市(R5)	◎(H31)			

・表中の記号は、次の通り、進学割合の増減の傾向を、( )内の年度はその傾向が見られ始めた入試時期を示す

#### 【記号】

- ◎◎ H18・19とR5・R6を比較して、進学割合で5ポイント以上の上昇がみられるレベル
- ◎ H18・19とR5・R6を比較して、進学割合で3ポイント以上の上昇がみられるレベル
- H18・19とR5・R6を比較して、進学割合で1.5ポイント以上の上昇がみられるレベル
- △ H18・19とR5・R6を比較して、進学割合で0.5ポイント程度の上昇がみられるレベル
- 進学割合が下降傾向である

#### 【通学区域制度等の変遷】

- H18/H19 6通学区（通学区域外10%）
- H20～ 全県一区制度
- R2～ 私学就学支援制度

- この資料からは、大分市内の県立高校及び私立高校への進学状況は、地域によって差が見られ、公共交通機関での通学の利便性がよい市町から進学する割合が上昇している傾向があるなど、必ずしも全県から大分市内への一極集中が進んでいるわけではないことが分かる。
- 進学先は、居住するエリアや公共交通機関、道路事情等によって異なるとも考えられる。例えば、「大分市」への進学割合が上昇している「臼杵市」においては、「津久見市」や「佐伯市」の県立高校、「佐伯市」の私立高校など、以南の高校への進学割合も上昇傾向である。一方、「大分市」や「佐伯市」から「臼杵市」への進学割合も上昇している。また、「津久見市」では、「佐伯市」の県立高校や私立高校への進学割合が上昇している。進学先の傾向の変化は、市町村単位で一定のものではなく、居住地が市のどのエリアにあるかによっても影響があると考えられる。
- 次は、各市町村の状況について、平成12年度から令和6年度にかけての約25年間の推移を分

析したものである。この間、県立高校普通科の通学区域については、いくつかの変遷があり、令和2年度からは私学就学支援制度が導入されている。

#### 〔大分市〕

- ・ H20 ごろから臼杵市への進学割合が上昇。
- ・ 公立高校全日制への進学割合は、H12 以降は 65～70%前後を推移し、31 以降で減少。
- ・ 県内私立への進学割合は、H12 以降で多少の増減はあるが、大きな変化はなし。
- ・ 県外私立高校への進学割合が、H31 以降で上昇。

#### 〔別府市〕

- ・ H31 以降、別府市内高校への進学割合は下降し、杵築高校への進学割合が上昇。
- ・ 大分市内普通科等への進学割合は、H18（通学区域外の受け入れを入学定員の 10%に拡大）、H20（全県一区）、H31 と段階的に上昇。
- ・ 別府市内、大分市内の私立高校（特に別府溝部学園高校、福德学院高校、楊志館高校）への進学割合は、R2 の私学就学支援導入前の H31 から上昇。
- ・ 県内、県外の私立高校への進学割合は、私学就学支援導入の前の H31 から上昇。

#### 〔中津市〕

- ・ 中津市内県立高校普通科への進学は、年度によって増減があるものの、大きな変化なし。
- ・ 公立高校全日制への進学割合は、H12 以降で増減を繰り返し、R2 年度以降で増加傾向。
- ・ 中津市、宇佐市の私立高校への進学割合は、H17 以降で増減を繰り返し、R2 以降でやや上昇。
- ・ 県外公立、私立高校への進学割合は、H31 以降で上昇。

#### 〔日田市〕

- ・ 日田高校への進学割合は、H12 以降で大きな変化なし。
- ・ 玖珠美山高校への進学割合は H31 以降でやや低下。
- ・ 公立高校全日制への進学割合は、H31 以降でやや低下。
- ・ 県外高校への進学割合は、H31 以降で上昇。

#### 〔佐伯市〕

- ・ 佐伯鶴城高校への進学割合は、H12 以降で大きな変化なし。
- ・ 大分市内普通科等 7 校への進学割合は、H12 以降で多少の増減はあるが大きな変化なし。
- ・ 公立高校への進学割合は、R2 以降で低下し、佐伯市内私立（日本文理大付属）、への進学割合が上昇。
- ・ H31 以降で、県外私立高校への進学割合が上昇。

#### 〔臼杵市〕

- ・臼杵高校への進学割合は H12 以降で大きな変化なし。
- ・津久見高校への進学は、H12 から H20 にかけて減少、その後再び上昇。佐伯鶴城高校への進学割合は H12 以降で大きな変化なし。
- ・大分市内普通科等 7 校への進学割合は、H18（通学区域外の受け入れを入学定員の 10%に拡大）以降で上昇。
- ・大分市内の私立高校への進学割合は、H31 ごろから上昇。

#### 〔津久見市〕

- ・津久見高校への進学割合は H16 ごろから低下で、R5 以降大幅に低下。
- ・臼杵高校への進学は H16～H20 に上昇するも以降で下降し、H21 以降は佐伯鶴城高校への進学の割合が上昇。
- ・大分市内普通科等 7 校への進学割合は、H31 以降で上昇傾向。
- ・大分市内の私立高校（楊志館高校、大分東明高校）、佐伯市内の私立高校（日本文理大学附属高校）への進学割合は、H31 ごろからやや上昇。
- ・R5 以降で県外私立への進学割合が上昇。

#### 〔竹田市〕

- ・竹田高校への進学割合は、H12 以降で大きな変化なし。
- ・三重総合高校への進学割合は H20 から下降。
- ・大分市内普通科等への進学割合は、H19 以降でやや上昇するも、R2 以降は下降。
- ・県外公立高校への進学割合は、H20 以降で上昇。
- ・県外私立高校、竹田市内私立高校（稲葉学園高校）、大分市内私立高校への進学割合は、ともに H21 以降で上昇。

#### 〔豊後高田市〕

- ・高田高校への進学割合は、H12 以降減少。H31 頃に増加が見られるも、その後再び減少。
- ・宇佐高校への進学割合は、年度によって差はあるが、H12 以降、概ね 5%前後で推移。
- ・私立高校への進学割合は、H18～H21 ごろは 10%、H31 以降は 5%程度で、宇佐市内私立高校（柳ヶ浦高校）への進学割合の増減と対応。
- ・県外進学者は、R5 以降やや増加。

#### 〔杵築市〕

- ・杵築高校への進学割合は、H12 以降 40%程度を推移し、H31 以降でやや低下。
- ・別府鶴見丘高校への進学割合は、H18 以降で上昇。（H18 以降で同一学区）
- ・大分市内普通科（大分上野丘高校、大分舞鶴高校）へは H19 以降で若干名が進学。

- ・県内、県外私立高校への進学割合は、私学就学支援導入の R2 以降で、16～17%程度に上昇。

#### 〔宇佐市〕

- ・宇佐高校への進学割合は、H21 以降で下降。安心院高校への進学割合は、H12 以降で多少の増減はあるが大きな変化なし。
- ・中津市内の県立普通科高校への進学割合は、H12 以降で上昇。(H16 は 7 % 枠、H18 は同一学区)
- ・宇佐市内の私立高校（柳ヶ浦高校）への進学割合は、H12 以降で増減を繰り返し、R2 以降で減少傾向。中津市内の私立高校（東九州龍谷高校）、県外高校への進学割合は H21 ごろから増加傾向。
- ・大分市内普通科、大分市内私立高校への進学割合は H12 以降で、多少の増減はあるが、大きな変化なし。

#### 〔豊後大野市〕

- ・三重総合高校への進学割合は H18 から段階的に下降傾向。竹田高校への進学割合は H31、R2 で上昇するも、R5 以降で減少。
- ・大分市内普通科への進学割合は、H18（通学区域外の受入を定員の 10%に拡大）以降でやや上昇。
- ・大分市内私立高校への進学割合は H20 から、竹田市内私立高校（稲葉学園高校）への進学割合は H31 から上昇。
- ・県外高校への進学割合は、H20 以降でやや上昇。

#### 〔由布市〕

- ・由布高校への進学割合は H21（連携型入試試行）以降で上昇。
- ・R5 以降で公立全日制への進学割合が減少。大分市内普通科等 7 校への進学割合も減少。
- ・私立高校全日制への進学割合は、H20 以降で下降傾向も、R5 以降で再び上昇（特に福德学院高校、大分東明高校）。
- ・公立高校への進学については、大分工業高校、大分商業高校への進学割合が H31 以降で上昇。

#### 〔国東市・姫島村〕

- ・国東高校への進学割合は、H31 以降、60%前後で推移。(H20,H21 は国東高校、双国校を合わせておよそ 70%)
- ・杵築高校への進学割合は、H12～H17 頃は 10%前後で、H18 以降に上昇。
- ・県内、県外私立高校への進学割合は、H12 以降で、ともに大きな変化はなし。

〔日出町〕

- ・公立高校全日制への進学割合は、H12~H20 は 80%前後、H21 以降で 90%となり、H31 以降は下降。私立高校への進学割合は、H20 ごろに比べ H31 以降で上昇。
- ・杵築市、日出町内への進学割合は H18 で低下、H31 で再び低下。
- ・別府市内の県立高校への進学割合は、H18 で上昇し、以降横ばい。大分市内の県立高校への進学割合は H20 で上昇し、以降横ばい。
- ・私立高校について、大分市内への進学割合は、H12 と比べて H20 に減少、その後、H31 以降でやや上昇。県外の私立高校への進学割合は、H31 以降で上昇。

〔九重町・玖珠町〕

- ・玖珠農業高校及び森高校への進学割合は、H12~H21 の間は大きな変化なし。玖珠美山高校開校後、H31 以降で、進学割合が大幅に下降も、R5 以降で再び上昇。
- ・日田市内公立高校 3 校への進学割合は、H31 で大幅に上昇も、R5 以降で下降。
- ・公立高校全日制への進学割合は、H31 以降で下降。日田市内私立高校への進学割合は、H31 以降で上昇。

（私立高校への進学）

- 次の【資料 4】は、各市町村の私立高校への進学割合について、平成 12 年度から令和 6 年度までの約 25 年間の状況をまとめたものである。

【資料 4】各市町村における私立高校（大分県内、全日制）への進学の傾向

	県立：12通学区				県立：6通学区		県立：全県一区			私学就学支援		
	H12	H13	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H31	R2	R5	R6
大分市	23.5%	24.3%	24.6%	27.7%	26.1%	26.0%	26.3%	26.1%	26.0%	30.3%	27.7%	24.7%
別府市	23.2%	22.9%	23.7%	22.7%	20.7%	22.2%	21.2%	20.3%	26.0%	28.3%	27.9%	28.3%
中津市	17.9%	14.1%	16.8%	18.5%	16.6%	17.9%	12.3%	16.2%	19.0%	21.5%	18.6%	13.7%
日田市	20.7%	23.8%	19.9%	19.4%	19.4%	14.3%	19.0%	19.5%	18.7%	22.8%	19.5%	19.2%
佐伯市	16.7%	17.9%	19.1%	19.0%	19.7%	18.5%	21.0%	21.3%	20.0%	27.2%	24.9%	28.0%
臼杵市	4.8%	9.2%	9.4%	8.1%	9.4%	7.2%	6.8%	9.2%	14.8%	21.0%	20.3%	21.4%
津久見市	5.8%	6.3%	7.3%	7.3%	7.9%	7.8%	10.7%	9.8%	21.6%	13.9%	16.2%	13.4%
竹田市	7.0%	7.3%	3.8%	5.7%	6.8%	5.7%	6.9%	10.0%	12.8%	16.4%	8.1%	12.9%
豊後高田市	5.1%	7.1%	6.0%	6.3%	11.7%	4.7%	10.0%	10.4%	5.5%	6.4%	6.2%	3.4%
杵築市	8.9%	9.4%	12.4%	10.1%	13.9%	12.9%	9.9%	10.5%	13.9%	14.2%	9.5%	14.1%
宇佐市	9.1%	10.1%	8.4%	7.1%	8.0%	6.5%	7.8%	10.0%	8.1%	9.1%	7.9%	8.8%
豊後大野市	5.2%	6.6%	5.7%	10.3%	5.9%	7.0%	12.4%	9.8%	12.2%	15.3%	14.9%	14.7%
由布市	23.9%	22.8%	24.8%	22.9%	20.5%	25.3%	19.6%	19.2%	14.3%	16.8%	22.5%	24.0%
国東市・姫島村	4.7%	6.5%	7.7%	7.8%	7.2%	10.4%	7.5%	6.0%	7.6%	6.2%	8.9%	6.8%
日出町	16.2%	19.5%	10.1%	16.6%	13.0%	15.7%	14.0%	9.4%	22.3%	14.8%	19.5%	20.0%
九重町・玖珠町	14.2%	9.9%	16.0%	14.4%	11.9%	9.9%	9.4%	12.8%	13.7%	18.7%	17.1%	15.7%

- 私立高校への進学割合については、就学支援制度が始まる令和2年度の前年から上昇傾向が見られる。中でも、「別府市」「臼杵市」「津久見市」「豊後大野市」「日出町」では、大分市及び同地域・近隣地域の私立高校への進学割合がいずれも上昇している。私立高校においては、公共交通機関での通学の利便性のみならず、スクールバスの利用によって、近隣地域から進学しやすい状況が作られている学校も見られる。

**(県外高校への進学)**

- 次の【資料5】は、県外の高校への進学についてまとめたものである。

**【資料5】 県外高校への進学の状況**

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
県外進学者数 (a)	215	192	202	250	266	281	315	352	413	461
県外通信制進学者数 (b)	17	22	25	27	46	51	84	90	145	207
(県外通信制進学者の割合) (b)/(a)	7.9%	11.5%	12.4%	10.8%	17.3%	18.1%	26.7%	25.6%	35.1%	44.9%

※ 「県外通信制進学者数」には、県内にサテライト校がある県外高校の通信制課程への進学者を含む。

- 県外高校への進学者は、平成31年度入試ごろから、その割合が上昇傾向であり、【資料3】からは、それが全県的な傾向であるとわかる。令和6年度には、全県で461名の生徒が県外の高校に進学しており、そのうち207名は通信制高校へと進学している。学習面や部活動面において、高いレベルにチャレンジしたいとして、県外の私立高校へ進学する生徒の数は年々増加傾向にある。

**(大分市内の県立高校への進学)**

- 大分市内の県立高校への進学割合については、前述のとおり、地域によって差が見られる。高校入試の志願状況について、大分市内の県立高校の普通科が1倍を超え、地域の高校の普通科は1倍を切っている状況が見られるため、多くの受験者が大分市内の県立高校に集中しているような印象を受けるが、地域の高校の欠員の要因については、ここまでで分析したように、「少子化」「県立高校志願割合の低下」「私立高校の専願」「広域通信制を含む県外高校への進学」などの要因が挙げられる。また、地域の学校における学級数の激減緩和の観点による「定員策定」なども要因の一つと考えられる。
- 他方、大分市内の普通科高校のうち、大分上野丘高校、大分舞鶴高校への進学について、大分市以外からの進学者の割合は、高くなっている傾向が確認された。次の【資料6】は、大分上野丘高校への進学状況を、【資料7】は大分舞鶴高校への進学状況をまとめたものである。

【資料6】大分上野丘高校への進学状況

	12通学区 (区域外3%・分割通学区外7%)				6通学区 (区域外10%)		全県一区															私学就学支援					
	H12	H13	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6				
別府市	3		3	5	15	8	16	13	21	19	23	13	16	15	23	12	20	18	21	10	30	20	20				
中津市	1											1	1	3	2	1	4		4	3	5	3	4				
日田市					1				1			1	1			2		2	1	1		2	1				
佐伯市			2	5	3	3	6	2	2	7	3	8	3	7	8	4	6	5	8	4	11	5	7				
臼杵市		1		1	1		2	7	2	7	5	3	3	1	2	6	6	8	4	3	3	3	5				
津久見市	1	1			1	1	2	1	1			4	2	1	2	1	1	2	1	1	1	2	1				
竹田市							1					1			2	2	1	3	3		3	2	2				
豊後高田市					1		1	2	1	1	2	2	1					1		1	1		2				
杵築市						1	1	4	3	3	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	1	3			
宇佐市			1							2	1	1	3	5	1		3	4	2		2	1	1				
豊後大野市		1		3	1	5	3	2	5	2	6	2	4	5	4	5	3	4	3	7	6	2	8				
由布市	16	13	23	20	17	17	7	15	8	5	6	6	9	6	7	13	4	11	11	6	12	2	17				
国東市・姫島村		2			1			1	1	2	3	1	1			1	1	2	2	1	1						
日出町			2		2	1	6	8	5	9	9	9	12	9	6	5	9	5	9	12	3	5					
九重町・玖珠町		1							1		1		1			1							1				
大分市以外 計	18	20	28	29	30	28	29	42	34	34	39	40	43	43	38	42	39	52	43	41	57	26	55				
大分市以外 割合	4.7%	5.1%	7.9%	8.2%	9.9%	8.0%	8.6%	13.7%	11.4%	11.3%	13.2%	13.1%	14.1%	14.2%	12.9%	13.7%	13.0%	17.3%	14.4%	13.4%	19.7%	8.7%	18.3%				
大分市 計	368	371	328	324	274	323	310	265	264	267	257	265	261	259	256	264	261	249	255	264	232	273	245				
大分市 割合	95.3%	94.9%	92.1%	91.8%	90.1%	92.0%	91.4%	86.3%	88.6%	88.7%	86.8%	86.9%	85.9%	85.8%	87.1%	86.3%	87.0%	82.7%	85.6%	86.6%	80.3%	91.3%	81.7%				
県内入学者数	386	391	356	353	304	351	339	307	298	301	296	305	304	302	294	306	300	301	298	305	289	299	300				

【資料7】大分舞鶴高校への進学状況

	12通学区 (区域外3%・分割通学区外7%)				6通学区 (区域外10%)		全県一区															私学就学支援					
	H12	H13	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6				
別府市	4	2	1	3	1	2	6	7	3	10	5	8	13	12	16	7	20	17	11	22	9	16	26				
中津市			1									1					1			1	1						
日田市			1		1			1		2		1	1	1	1			1	1	5	1	1	1				
佐伯市	1		2	3	1	1	1	1	2	1	3	2	2	3	1	5	2		2	2	2		3				
臼杵市	1	1			4	3	1	1	3	2	9	6	5	3	6	9	9	2	5	9	7	12					
津久見市		1		1		2	2	1	1	1	3	5		2	3	2	4		3	3	2	4					
竹田市			1		1	2	2	1		1	3	2			1	2	1		1	2	1	1	1				
豊後高田市										1		1	1	2									1				
杵築市						1	1	1		2			1		2		2	3	3	4	3	4	3				
宇佐市		1			2					1	1	1				1						1					
豊後大野市	5	1		2	5		1	2	5	6	7	4	6	7	6	5	13	10	8	11	6	6	5				
由布市	12	13	8	15	7	7	6	5	16	12	15	10	13	12	13	13	10	13	10	15	7	11	12				
国東市・姫島村	1				1	2	1	1							1		1			3		1	3				
日出町	2		2	2	2		4	4	2			1	1	6	4	5	3	4	8	14	7	8	6				
九重町・玖珠町		1			1	1	2			1	1	1				1	3	2		1	2	2					
大分市以外 計	22	19	15	25	24	21	20	19	28	31	32	35	38	36	36	44	48	44	37	69	43	42	50				
大分市以外 割合	5.6%	4.8%	4.3%	7.2%	7.8%	6.7%	6.5%	6.1%	9.0%	10.2%	10.4%	11.5%	12.5%	12.1%	12.2%	14.5%	16.7%	15.1%	12.5%	24.0%	14.3%	14.3%	17.6%				
大分市 計	369	374	333	323	283	294	288	291	283	272	277	269	265	261	260	260	239	248	258	218	258	251	234				
大分市 割合	94.4%	95.2%	95.7%	92.8%	92.2%	93.3%	93.5%	93.9%	91.0%	89.8%	89.6%	88.5%	87.5%	87.9%	87.8%	85.5%	83.3%	84.9%	87.5%	76.0%	85.7%	85.7%	82.4%				
県内入学者数	391	393	348	348	307	315	308	310	311	303	309	304	303	297	296	304	287	292	295	287	301	293	284				

- これらの高校では、「別府市」「臼杵市」「津久見市」「豊後大野市」「日出町」など、公共交通機関での通学の利便性がよい市町を中心に進学者数が増加傾向にあるが、これらの市町においても、年度によって多少がある状況である。
- 大分上野丘高校への進学について、「中津市」「佐伯市」「竹田市」「宇佐市」など、近年、進学者数が増加している地域も見られる。このことをもって、全県一区導入以前と比較して、大分市への進学者が大きく増加したとは必ずしも言えない。ここでは、詳細なデータの掲載を控えるが、例えば、「中津市」からの大分上野丘高校への進学者は、現在5名程度である一方で、同市から大分東明高校への進学者は5名程度減少している。他の市においても同様の傾向がみられる。進学した生徒の学力等の状況は把握できないが、数の面だけから見ると、大分市への進学者数に大きな変化はない。全県一区導入以前は、選択肢が地域の高校と大分市内の私立高校に限られていたものが、全県一区の導入により、他地域の県立高校も選択肢となったことによるものと思われる。

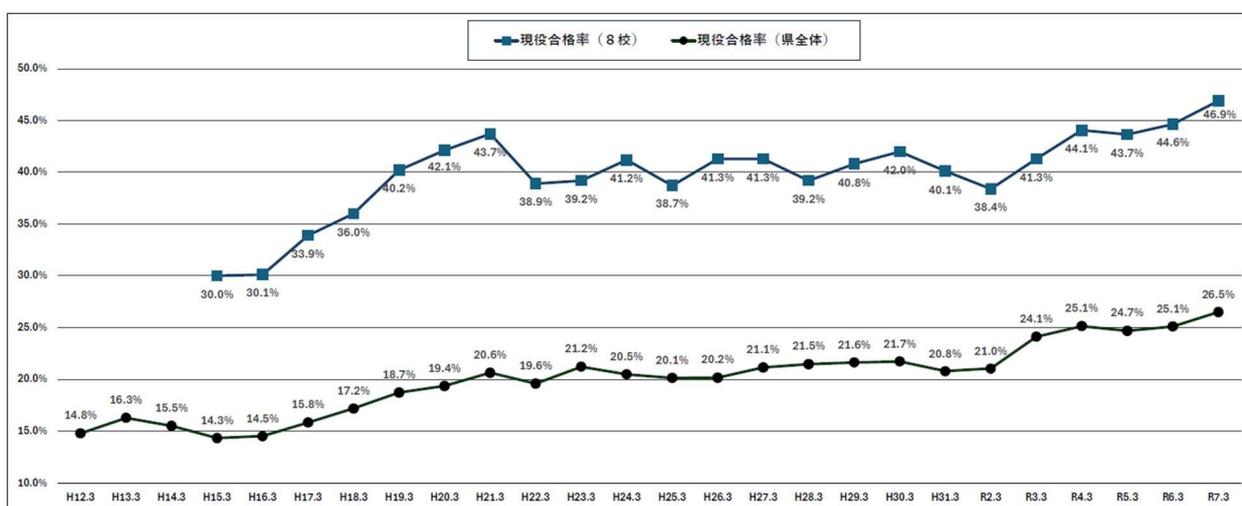
## (県全体の進学力の状況)

- 県教育委員会から提供された高校入試における高得点層（全県の上位 300 人程度）の分布を見ると、高得点層の者で地域の高校に進学している者が一定の割合で見られ、平成 20 年度の全県一区導入以降、現在まで大きな変化は見られないことが分かった。

全県一区は、学校間の競争によって教育力の向上が図られるとともに、生徒間の切磋琢磨する環境が生まれることによって、一部の学校のみではなく、県全体の進学力の向上に繋がるというメリットが認められる。

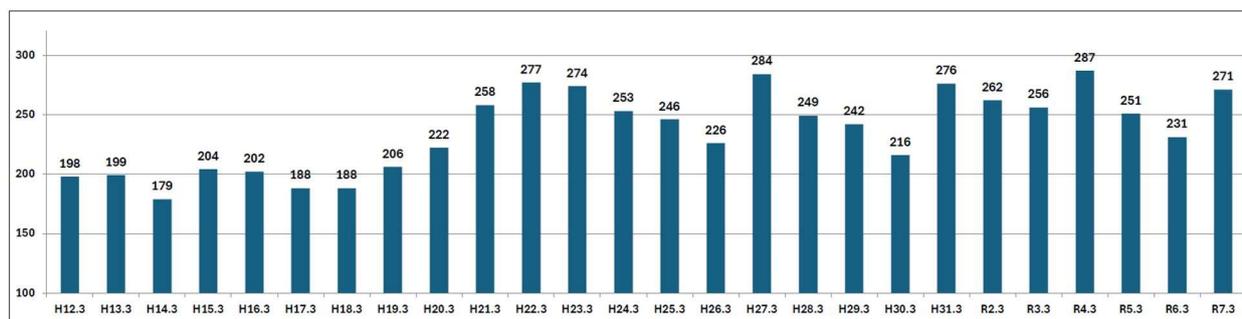
次の【資料 8-1】【資料 8-2】は、大学進学状況であり、この資料からも県全体の進学力の向上が図られていることが分かる。

【資料 8-1】国公立大学現役合格率の状況



※表中の「8校」は、全県一区導入時に地域の拠点校とした「杵築高校」「別府鶴見丘高校」「臼杵高校」「佐伯鶴城高校」「竹田高校」「日田高校」「中津南高校」「宇佐高校」をいう。

【資料 8-2】難関大学合格者（過年度生を含む）の状況



## (2) 進路選択の理由

### (高校生及びその保護者の進路選択)

- 前述のとおり、全県一区の導入以降の「生徒の進路選択の幅の拡大」の状況について、地域や年度によって状況に違いはあるものの、一定数が旧学区を超えて県立高校に進学する状況が見られる。また、令和以降では、地域の私立高校、大分市内の私立高校への進学が増加しており、加えて、近年では県外高校への進学者も増加傾向である。
- 次の【資料9】は、令和6年の12月に実施したアンケートにおいて、「高校選びで重視したこと」についての高校生の回答をまとめたものである。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から五つ以内で選択することを求めている。

【資料9】 高校生が高校選択に際して重視したこと（公私別学科別）

在籍校	学科	学びたい学科・コースがあること	学習指導が充実していること	進学・就職実績が良いこと	多くの資格が取得できること	魅力的な学校行事があること	学校の施設・設備が充実していること	やりたい部活動があること	自分の学力にあっていていること	自分の生活習慣にあっていていること	自分の居住地の活性化に関すること	人間関係や交友関係に関すること	社会性が育まれること	学校の近隣に商業施設があること	家庭状況に関すること	通学距離が近いこと	通学の際に、公共交通機関が利用できること	通学の際に、スクールパスを利用できること
県全体	全学科	12.0%	7.5%	11.6%	6.6%	7.7%	4.4%	7.5%	12.8%	4.0%	1.2%	6.7%	2.0%	1.4%	2.1%	8.9%	2.8%	0.7%
	普通科	10.1%	8.8%	11.3%	2.9%	7.6%	4.6%	8.0%	13.7%	4.7%	1.3%	7.7%	2.1%	1.3%	2.3%	9.9%	3.1%	0.7%
	専門学科・総合学科	15.2%	5.5%	12.0%	12.7%	7.9%	4.1%	6.7%	11.3%	2.9%	1.0%	5.1%	2.0%	1.4%	1.8%	7.3%	2.2%	0.8%
県立高校	全学科	11.0%	7.2%	11.8%	6.3%	7.8%	4.1%	7.5%	13.3%	4.2%	1.2%	7.1%	2.0%	1.3%	2.1%	9.7%	2.6%	0.6%
	普通科	8.9%	8.6%	11.5%	2.2%	7.7%	4.4%	7.9%	14.2%	5.0%	1.3%	8.2%	2.0%	1.2%	2.3%	11.0%	3.0%	0.6%
	専門学科・総合学科	14.2%	5.1%	12.3%	12.5%	8.1%	3.8%	6.9%	11.8%	3.0%	1.0%	5.4%	2.1%	1.4%	1.9%	7.7%	2.1%	0.6%
私立高校	全学科	15.9%	8.7%	10.6%	8.0%	7.2%	5.5%	7.3%	10.7%	3.3%	1.2%	5.3%	2.2%	1.8%	1.9%	5.9%	3.2%	1.4%
	普通科	14.0%	9.3%	10.6%	5.4%	7.3%	5.5%	8.3%	11.7%	3.8%	1.2%	6.0%	2.5%	1.8%	2.1%	6.1%	3.3%	1.1%
	専門学科・総合学科	19.9%	7.5%	10.7%	13.5%	6.9%	5.6%	5.3%	8.4%	2.1%	1.2%	3.8%	1.8%	1.8%	1.4%	5.4%	2.9%	1.8%

- 県立高校普通科の生徒の結果を見ると、「自分の学力にあっていていること」の割合が14.2%と最も高く、私立高校普通科の生徒を見ると、「学びたい学科・コースがあること」の割合が14.0%で最も高くなっている。また、県立高校の普通科の生徒にとっては、「通学距離（11.0%）」も大切な要素であったと考えてよいであろう。
- 県立高校普通科の生徒については、「学びたい学科・コースがあること」「学習指導が充実していること」「魅力的な学校行事があること」「やりたい部活動があること」「人間関係や交友関係に関すること」の割合がいずれも7～8%台となっており、自分の興味・関心や人間関係、学習や特別活動に関することなど、多様な観点から高校選びをしていると見られる。多様な選択肢から、生徒個々がそれぞれ重視する観点に基づいて、高校選びがなされている状況については、全県一区の導入の趣旨に適ったものとなっている。
- 次の【資料10】は、高校生の保護者による回答について、在籍校及び進学先地域別にまとめたものである。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から五つ以内で選択する

ことを求めている。

【資料 10】 高校生の保護者が高校選択に際して重視したこと（公私別進学先地域別）

在籍校	進学先地域	子どもの学びたい学科・コースがあること	学習指導が充実していること	進学・就職実績が良いこと	多くの資格が取得できること	魅力的な学校行事があること	学校の施設・設備が充実していること	子どものやりたい部活動があること	子どもの学力にあっていること	子どもの生活習慣にあっていいること	子どもの居住地の活性化に関すること	子どもの人間関係や交友関係に関すること	子どもの社会性が育まれること	学校の近隣に商業施設があること	家庭状況に関すること	通学距離が近いこと	通学の際に、公共交通機関を利用しやすいこと	通学の際に、スクールバスを利用できること	通学に係る費用負担が少ないこと
県全体	全地域	13.6%	8.0%	12.8%	5.9%	2.5%	2.3%	7.9%	14.5%	3.9%	1.3%	5.1%	2.8%	0.4%	1.6%	10.1%	2.9%	0.4%	4.0%
	地域内	13.3%	7.8%	12.8%	5.8%	2.2%	2.1%	7.1%	14.9%	4.2%	1.5%	5.2%	2.3%	0.3%	1.6%	12.1%	2.2%	0.3%	4.4%
	地域外	14.7%	8.5%	12.9%	6.4%	3.3%	2.9%	10.1%	13.5%	2.9%	0.7%	4.9%	4.3%	0.6%	1.6%	4.0%	5.0%	0.8%	2.7%
県立高校	全地域	12.7%	7.7%	13.2%	6.0%	2.6%	1.9%	8.0%	14.8%	4.0%	1.4%	5.4%	2.7%	0.3%	1.5%	10.8%	2.5%	0.2%	4.2%
	地域内	12.4%	7.5%	13.0%	5.8%	2.3%	1.7%	7.4%	15.0%	4.3%	1.5%	5.5%	2.3%	0.2%	1.5%	12.7%	1.8%	0.3%	4.7%
	地域外	13.8%	8.5%	13.8%	6.6%	3.5%	2.3%	10.1%	14.1%	2.9%	0.8%	5.0%	4.0%	0.5%	1.5%	4.4%	5.1%	0.2%	2.6%
私立高校	全地域	17.5%	9.1%	11.2%	5.7%	2.0%	4.0%	7.1%	13.4%	3.5%	1.0%	3.9%	3.3%	0.7%	1.9%	7.2%	4.5%	1.1%	2.9%
	地域内	17.3%	9.4%	11.7%	5.5%	1.9%	3.7%	5.7%	14.2%	3.8%	1.3%	3.6%	2.5%	0.7%	1.9%	9.2%	4.3%	0.4%	2.8%
	地域外	17.7%	8.4%	9.9%	6.0%	2.4%	4.6%	10.3%	11.5%	2.7%	0.5%	4.5%	5.2%	0.8%	1.9%	2.6%	4.8%	2.9%	3.1%

※「地域内」とは、居住地と同一市町をいう。なお、「国東市」と「姫島村」、「九重町」と「玖珠町」は同じ地域とする。

- 普通科の高校生同様に、県立高校に在籍する生徒の保護者では、「子どもの学力にあっていること」の割合が14.8%と最も高く、私立高校に在籍する生徒の保護者では、「子どもの学びたい学科・コースがあること」の割合が17.5%で最も高くなっている。
- 県立高校の保護者と私立高校の保護者を比較すると、「子どもの学びたい学科・コースがあること」の割合で、私立高校の方が5ポイント程度高くなっている。この項目については、地域内の私立高校に在籍する生徒の保護者と、地域外の私立高校に在籍する生徒の保護者とで回答割合に差がほとんどないことから、私立高校の大きな魅力の一つであると見られる。
- 地域外の県立高校に在籍する生徒の保護者では、「子どものやりたい部活動があること」の割合が10.1%で、地域内の県立高校に在籍する生徒の保護者の回答割合に比べて高くなっている。「子どものやりたい部活動があること」は、私立高校に在籍する生徒の保護者による回答においても、同様の傾向にあり、他地域の高校を選択する大きな要因となっている。今後、地域の県立高校の学校規模が縮小した際には、部活動において、生徒の多様なニーズに応えることが難しくなる可能性がある。

## （中学生及びその保護者の進路選択）

- 次の【資料 11】は、「高校選びで重視すること」に関する中学 2、3 年生の回答を、第一志望校のエリア別、公私別にまとめたものである。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から五つ以内で選択することを求めている。

【資料 11】 中学生が高校選択に際して重視すること（第一志望の公私別進学希望地域別）

進路希望		学びたい学科・コースがあること	学習指導が充実していること	進学・就職実績が良いこと	多くの資格が取得できること	魅力的な学校行事があること	学校の施設・設備が充実していること	やりたい部活動があること	自分の学力にあっていること	自分の生活習慣にあっていること	自分の居住地の活性化に関すること	人間関係や交友関係に関すること	社会性が育まれること	学校の近隣に商業施設があること	家庭状況に関すること	通学距離が近いこと	通学の際に、公共交通機関を利用しやすいこと	通学の際に、スクールバスを利用できること
全体		11.7%	7.5%	19.6%	5.7%	8.2%	4.7%	8.0%	9.7%	3.0%	0.8%	5.7%	2.6%	1.1%	1.3%	7.2%	2.6%	0.6%
地域内	県立	10.7%	7.5%	19.4%	4.2%	8.2%	4.4%	7.9%	10.3%	3.4%	0.9%	6.5%	2.2%	1.0%	1.5%	9.3%	2.1%	0.6%
	私立	15.3%	6.5%	19.9%	7.0%	7.9%	4.7%	7.2%	8.3%	3.0%	0.9%	4.9%	2.2%	1.0%	1.2%	6.3%	2.5%	1.0%
大分市内	県立	11.3%	8.1%	19.1%	6.9%	8.3%	5.0%	7.9%	10.1%	2.6%	0.7%	5.4%	2.4%	1.2%	1.1%	6.9%	2.5%	0.5%
	私立	16.5%	7.0%	18.2%	8.9%	7.8%	4.6%	8.0%	8.1%	2.9%	0.6%	4.3%	2.5%	1.2%	0.9%	4.5%	3.4%	0.7%
地域外	県立	11.1%	7.4%	23.3%	5.0%	8.2%	4.2%	8.1%	9.6%	2.6%	0.6%	5.3%	2.4%	1.3%	1.3%	4.4%	4.5%	0.7%
	私立	14.9%	6.4%	16.6%	6.9%	7.0%	5.3%	9.0%	6.1%	2.5%	1.0%	4.0%	12.5%	1.0%	1.0%	1.7%	2.6%	1.5%
県外	県立	10.4%	6.6%	16.5%	5.3%	7.5%	8.2%	12.3%	8.5%	2.7%	1.3%	5.3%	4.0%	1.3%	3.5%	3.2%	2.7%	0.6%
	私立	9.8%	6.7%	18.9%	4.9%	7.5%	9.9%	16.9%	6.3%	2.6%	0.9%	5.5%	4.6%	0.8%	1.8%	0.9%	1.1%	0.9%

- 中学生にとって、高校選びの最大のポイントは、「進学・就職実績が良いこと」であることが分かる。とりわけ、地域外の県立高校を志望する生徒の回答のうち、同項目は 23.3%で、4分の1程度を占め、他の区分よりも 4ポイント程度高くなっている。中学生は、高校卒業後の将来を見据えて、学校選びをしており、自分の目標達成に資する高校に進学することを希望していると見られる。
- 進学先としての希望地域にかかわらず、県立高校志望の生徒の「自分の学力にあっていること」の回答割合は、私立高校志望生徒よりも高く、私立高校志望の生徒の「学びたい学科・コースがあること」の回答割合は、県立高校志望生徒よりも高い。中学校段階での自分の学力に合わせて高校を選ぶのではなく、自分の興味や関心、適性に応じて高校を選び、その中で個性の伸長が図られるよう、県立高校の学科、コースにはさらなる魅力化が求められよう。
- 県外高校については、近年、進学者が増加傾向である。県外高校を第一志望とする生徒が、「やりたい部活動があること」と回答した割合は、県内高校志望生徒の回答の割合よりも高くなっている。中でも、県外私立高校を志望する生徒の回答の割合は、県内私立高校の志望者のそのおおよそ 2 倍であり、また、「学校の施設・設備が充実していること」の県外志望者の回答の割合も、県内高校の志望者のおおよそ 2 倍であることは、優れた環境、施設のもと、高いレベルで部活動に挑戦したいとの中学生の思いの証左であると見られる。
- 次の【資料 12】は、中学生の保護者による回答について、保護者の希望する進学先別にまと

めたものである。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から五つ以内で選択することを求めている。

【資料 12】中学生の保護者が高校選択に際して重視すること（保護者の希望進学先別）

進路希望	子どもの学びたい学科・コースがあること	学習指導が充実していること	進学・就職実績が良いこと	多くの資格が取得できること	魅力的な学校行事があること	学校の施設・設備が充実していること	子どものやりたい部活動があること	子どもの学力にあっていること	子どもの生活習慣にあっていること	子どもの居住地の活性化に関すること	子どもの人間関係や交友関係に関すること	
全体	18.4%	9.9%	13.2%	7.3%	2.9%	3.6%	6.6%	11.9%	2.8%	0.7%	4.1%	
県内県立高校	全学科	18.2%	10.1%	13.4%	7.1%	2.9%	3.4%	6.5%	12.3%	2.7%	0.7%	4.1%
	普通科	17.7%	11.6%	13.8%	4.4%	2.8%	3.5%	6.5%	13.5%	2.6%	0.6%	4.2%
	専門学科・総合学科	19.3%	6.9%	12.5%	12.6%	3.0%	3.1%	6.6%	10.0%	2.8%	0.7%	3.8%
県内私立高校	全学科	20.7%	7.7%	10.5%	10.4%	2.9%	4.6%	7.0%	9.3%	3.4%	0.9%	4.2%
	普通科	18.8%	8.2%	11.1%	6.6%	2.4%	3.8%	8.7%	11.4%	4.0%	1.0%	4.9%
	専門学科・総合学科	21.6%	7.5%	10.2%	12.1%	3.1%	5.0%	6.3%	8.4%	3.1%	0.8%	4.0%
県外高校	全学科	17.8%	10.3%	11.6%	5.9%	3.3%	6.3%	12.0%	8.1%	3.7%	0.6%	4.2%
	普通科	15.5%	11.1%	12.5%	3.5%	3.2%	6.3%	14.8%	10.0%	2.3%	0.5%	4.4%
	専門学科・総合学科	19.6%	9.7%	10.8%	7.9%	3.4%	6.4%	9.7%	6.5%	4.9%	0.7%	4.1%
海外高校	25.5%	11.8%	7.8%	5.9%	2.0%	3.9%	5.9%	3.9%	0.0%	0.0%	3.9%	
特別支援学校	11.1%	5.9%	7.2%	2.0%	0.7%	3.9%	0.7%	15.0%	9.8%	0.7%	9.2%	
高専	20.8%	11.8%	16.6%	7.4%	2.1%	6.5%	3.6%	8.7%	1.8%	0.0%	3.0%	
就職	20.7%	3.4%	17.2%	6.9%	0.0%	0.0%	6.9%	13.8%	3.4%	0.0%	6.9%	

進路希望	子どもの社会性が育まれること	学校の近隣に、商業施設があること	家庭状況に関すること	通学距離が近いこと	通学の際に、公共交通機関を利用しやすいこと	通学の際に、スクールバスを利用できること	通学に係る費用負担が少ないこと	勤労によって、子どもの夢の実現を図ること	勤労によって、子どもが社会に貢献すること	勤労によって、子どもが自ら収入を得ること	
全体	3.0%	0.3%	0.9%	6.7%	2.8%	0.3%	2.8%	0.9%	0.3%	0.8%	
県内県立高校	全学科	2.8%	0.3%	0.9%	7.1%	2.8%	0.2%	2.9%	0.7%	0.2%	0.6%
	普通科	2.8%	0.2%	0.7%	7.7%	3.0%	0.3%	2.8%	0.6%	0.2%	0.3%
	専門学科・総合学科	3.0%	0.3%	1.1%	5.9%	2.4%	0.2%	3.0%	1.1%	0.3%	1.3%
県内私立高校	全学科	3.4%	0.4%	1.0%	4.8%	2.6%	0.7%	1.7%	1.5%	0.6%	1.5%
	普通科	4.7%	0.4%	0.9%	4.3%	2.7%	1.4%	2.0%	1.7%	0.4%	0.6%
	専門学科・総合学科	2.8%	0.4%	1.1%	5.0%	2.6%	0.4%	1.6%	1.4%	0.7%	1.9%
県外高校	全学科	5.9%	0.0%	0.8%	1.8%	1.9%	0.2%	3.2%	1.0%	0.4%	0.9%
	普通科	5.3%	0.0%	0.9%	2.5%	2.1%	0.5%	3.5%	0.5%	0.2%	0.5%
	専門学科・総合学科	6.4%	0.0%	0.7%	1.1%	1.7%	0.0%	3.0%	1.5%	0.6%	1.3%
海外高校	11.8%	0.0%	2.0%	0.0%	5.9%	0.0%	3.9%	2.0%	0.0%	3.9%	
特別支援学校	11.1%	0.0%	1.3%	3.9%	3.3%	2.6%	1.3%	2.6%	2.6%	5.2%	
高専	3.3%	0.1%	0.9%	4.0%	2.5%	0.0%	2.9%	2.1%	0.6%	1.2%	
就職	6.9%	0.0%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	3.4%	

○ 回答全体では、「子どもの学びたい学科・コースがあること」が18.4%で最も高く、次いで「進学・就職実績が良いこと」で13.2%、「子どもの学力にあっていること」で11.9%となっている。この序列及び割合は、県内県立高校全体においても、県内県立高校普通科においても同様であり、割合も同程度である。

○ 県外高校への進学には、保護者の理解と支援が不可欠である。県外高校も一層の特色化を図る中、保護者も多様な情報を収集し、「部活動」を理由とした進学のみではなく、「子どもの学びたい学科・コース」「学習指導の充実」「進学・就職実績」などから積極的に進学を進める保護者も増加する可能性がある。県内のどこの県立高校に進学するか、県内の公立高校のどちらに進学

するかではなく、県外高校も選択肢の一つになっていることを認識する必要がある。

### （「通信制課程」という選択肢）

- 令和6年度の県内中学校卒業者のうち、207名が県外高校の通信制課程へと進学している。次の【資料13】は、中学生及びその保護者が進学先として通信制高校を検討しているかについてまとめたものである。

#### 【資料13】 進学先としての通信制高校の検討状況

対象		検討していない	検討している			
			計	県立爽風館高校通信制課程を進学先の一つとして検討している	県内私立高校の通信制課程を進学先の一つとして検討している	県内にサテライト校がある県外高校の通信制課程を進学先の一つとして検討している
中学生	計	91.2%	8.8%	2.6%	4.9%	1.2%
	3年生	94.5%	5.5%	1.7%	3.0%	0.7%
	2年生	88.1%	11.9%	3.5%	6.7%	1.7%
中学生の保護者		92.6%	7.4%	3.0%	2.8%	1.6%

- 「検討している」割合は、中学生の全体では8.8%であり、3年生は5.5%である。本アンケートは12月に実施したものであり、その点では、3年生の回答は、直後に迫る入試における実際の志望を反映したものであるととらえることができよう。3年生では、アンケート回答者6,472名のうち356名が「検討している」と回答しており、昨年の進学者数及び近年の増加傾向を鑑みて、現実味のある数字だと考えられる。他方、広く進学先を検討段階にある中学2年生は11.9%となっており、3年生よりも高い割合となっている。
- 次の【資料14】は、「検討している」と回答した中学生を対象として、検討の理由を尋ねた回答である。

#### 【資料14】 通信制高校を検討する理由

対象	学びたい学科・コースがあるから	資格取得のための学習ができるから	働きながら学ぶことができるから	自分のペースで学ぶことができるから	趣味などに、時間を使うことができるから	自分の生活習慣にあっているから	人間関係や交友関係に関する悩みや困りがあるから	家庭状況にあっているから
中学生	16.7%	8.4%	13.0%	25.3%	18.0%	10.4%	5.6%	2.6%

※ 回答は「通信制課程を進学先の一つとして検討している」とした中学生による

- 「自分のペースで学ぶことができるから」や「趣味などに、時間を使うことができるから」との回答が多くみられる。通信制課程の選択の理由については、従前、様々であり、全日制課程で

の学校生活への適応に苦慮するなどの理由も多々見られた。進路が多様化する中、高校生、中学生には、時間の使い方の観点から、通信制課程に注目しているようである。また、「学びたい学科・コースがあるから」も次いで割合が高く、積極的に通信制課程を選択する中学生が増えてきている。近年、県内にあっては、県立爽風館高校への進学者が100名を超えており、私立高校の通信制課程への進学者数も増加傾向である。また、「県内にサテライト校がある県外高校の通信制課程」については、その校数が増加傾向にあることから、通信制課程への進学者の状況は注視することが必要である。

### (3) 通学区域制度に関する生徒、保護者の意識

#### (全県一区の希望の状況)

- 次の【資料15】は、全県一区の希望について、今回のアンケートの対象者ごとにまとめたものである。

【資料15】全県一区を希望する割合

中学校の所在地	高校生		高校生の保護者	中学生			中学生の保護者
	全体	普通科進学生徒		全体	地域外の高校を第一志望	普通科を第一志望	
大分市	85.3%	86.6%	82.9%	72.9%	70.6%	75.5%	75.5%
別府市	85.4%	87.2%	89.5%	71.7%	83.4%	73.0%	77.4%
中津市	80.5%	85.1%	76.7%	64.6%	79.5%	65.3%	70.8%
日田市	82.4%	88.6%	82.1%	62.0%	72.7%	65.8%	81.0%
佐伯市	83.2%	88.2%	87.2%	70.9%	78.6%	72.9%	76.7%
臼杵市	79.9%	86.7%	92.9%	80.6%	83.8%	81.9%	81.7%
津久見市	78.2%	87.1%	85.3%	76.9%	83.3%	79.0%	84.2%
竹田市	82.8%	83.8%	86.7%	70.7%	77.9%	71.1%	87.7%
豊後高田市	78.7%	78.9%	80.9%	64.4%	82.7%	62.9%	82.3%
杵築市	82.1%	88.1%	88.8%	76.1%	76.7%	78.5%	87.3%
宇佐市	81.1%	83.9%	81.9%	80.9%	88.3%	82.2%	78.9%
豊後大野市	85.6%	86.4%	85.3%	82.7%	88.0%	85.3%	86.5%
由布市	83.3%	80.6%	86.4%	80.8%	81.9%	81.9%	84.2%
国東市・姫島村	80.4%	87.4%	79.7%	79.7%	91.2%	82.2%	82.1%
日出町	82.8%	87.9%	88.0%	83.1%	86.5%	86.1%	84.7%
九重町・玖珠町	82.3%	83.4%	90.7%	70.9%	77.2%	72.9%	87.5%
計	83.7%	86.1%	84.1%	73.3%	80.9%	75.3%	77.6%

※各区分において、合計の割合よりも数値の高い箇所に色付けをしている。

- 全県一区が望ましいと回答したのは、高校生については、全体では83.7%、普通科に在籍する生徒では86.1%である。高校生の保護者は84.1%となっている。中学生については、全体では73.3%、普通科を第一志望とする中学生では75.3%である。中学生の保護者は77.6%である。

- アンケート調査の文章記述では、全県一区が望ましいとする理由としては、高校にはそれぞれの校風や伝統、魅力がある中で、居住地によって進学を希望する高校を受験できないことには不平等感を感じるとの声などが挙げられていた。

また、「居住地に応じて、通学区の中から選択する」制度を希望する中学生の意見として、「全県一区だと定員割れをする高校が増えてしまうかもしれない」というものがあつた。少子化に伴い、小学校や中学校が統合するなど、学校がなくなる経験をしてきた生徒もあり、定員割れによって、地域の高校がなくなるのではないかという危惧を抱いている中学生もいるようだ。自分の地域には高校が残ってほしいという思いの表れであろう。

- 「普通科に在籍する高校生」「高校生の保護者」「普通科を第一志望とする中学生」「中学生の保護者」の各区分で、いずれも希望する割合が全県の平均値を上回った地域は、「臼杵市」「津久見市」「杵築市」「豊後大野市」「日出町」である。

一方、すべての区分で全県の平均を下回った地域は、「中津市」である。

- 校長の回答について、全県一区がよいとする割合は、中学校が 50.6%、高校が 50.0%となっている。生徒の志望を最優先にとの考えはありつつも、地域の今後の在りように思いをいたしていることがアンケートの記述内容から見受けられた。

- 次の【資料 16】は、分割通学区制度となった場合の進路選択について尋ねた回答について、全県一区と深く関わりのある県立高校普通科希望の中学生、中学生の保護者を抽出して整理したものである。

【資料 16】居住地外の県立高校普通科を志望する中学生の分割通学区制度の際の進路選択

対象	居住地に応じて、通学区の中から選択し、県立高校の普通科を受験する	志望校のある通学区内に転居して、県立高校の普通科を受験する	居住地に関係なく選択できる、県立高校の普通科以外の学科を受験する	居住地に関係なく選択できる、県内の私立高校を受験する	居住地に関係なく選択できる、県外の私立高校を受験する
居住地外の県立高校の普通科を第一志望とする中学生	57.9%	17.5%	16.0%	6.7%	2.0%

- 「居住地外の県立高校の普通科を第一志望とする中学生」の回答では、約 6 割が「居住地に応じて、通学区の中から選択し、県立高校の普通科を受験する」と回答し、約 4 割がそれ以外の回答を選択している。中でも、「志望校のある通学区内に転居して、県立高校の普通科を受験する」と回答した割合は 17.5%となっている。そうした場合には、地域から家族で転居して、人ごといなくなるというリスクも生じうるため、居住地に居ながらすべての県立高校を選択できる現在の制度には、一定の意義があると思われる。

### 3. 魅力ある学校づくり

#### (1) 通学の状況

##### (通学時間)

- 次の【資料 17】は、高校生の片道の平均通学時間について、中学校の所在地及び高校の所在地別に整理したものである。この資料は、高校生全体の集計結果であり、公立私立を問わず、また、専門学科や総合学科への進学者も含んだものである。

【資料 17】 高校生の片道の平均通学時間（中学校の所在地及び高校の所在地別）

単位：分

所在地	高校所在地																
	大分市	別府市	中津市	日田市	佐伯市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後高田市	杵築市	宇佐市	豊後大野市	由布市	国東市	日出町	玖珠町	
中学校所在地	大分市	30.7	54.6	30.0	21.0	62.0	45.6	54.8	33.9	22.5	40.0		55.2	45.0	15.0	63.0	25.0
	別府市	52.7	22.9		15.0	90.0		45.0	33.0		48.3	33.0	45.0		45.0	42.0	
	中津市	54.3	60.0	21.4	47.6						75.0	39.5			15.0	75.0	
	日田市	25.6	15.0	15.0	20.3			75.0	15.0	15.0					15.0		37.5
	佐伯市	68.2	15.0	15.0	25.0	24.4	45.0	35.0	26.3			45.0					
	臼杵市	59.4	90.0		15.0	47.1	22.2	31.7	20.0		15.0		47.1				
	津久見市	71.9	105.0		15.0	44.1	23.7	20.6	35.0						15.0		
	竹田市	69.9	15.0		15.0		35.0		21.6			75.0	53.3	45.0			
	豊後高田市	59.3	35.0	47.5	15.0	15.0	45.0			19.2	45.0	29.5			15.0		
	杵築市	58.1	53.0	67.5			75.0		15.0	15.0	19.9	15.0			47.9	26.5	
	宇佐市	52.5	45.0	39.6	15.0			112.5	45.0	21.0	45.0	22.1			15.0	45.0	15.0
	豊後大野市	61.8	45.0			37.5	45.0	45.0	37.2	15.0			24.0				15.0
	由布市	52.6	45.0	15.0	51.0							15.0		32.9	15.0		37.5
	国東市・姫島村	45.8	68.4	22.5		15.0	15.0		15.0		37.4	45.0			23.3		75.0
	日出町	63.5	46.2	45.0					15.0		40.6	120.0			45.0	33.4	
	九重町	46.0			54.3	15.0			15.0								23.0
玖珠町	30.0	45.0		46.2		15.0		15.0								19.0	

※「選択肢」を、次の「計算値」に直して、平均を算出

選択肢	計算値	選択肢	計算値	選択肢	計算値
30分未満	15分	60分以上～90分未満	75分	120分以上	135分
30分以上～60分未満	45分	90分以上～120分未満	105分		

- 大分市の高校へ県内の全市町村から生徒が進学している状況が見られるなど、県内の様々な地域間で生徒が進学、通学していることが分かる。
- 出身中学校の所在地と同一地域の高校に通学する場合、20分～30分程度の所要時間である。これに対し、地域を越えた通学では、60分以上の時間を要している状況もある。加えて、例えば、「日田市～大分市」の25.6分や「佐伯市～別府市」の15.0分などは、出身中学校所在地からの毎日の通学ではなく、高校所在地に転居したものと考えられる。自分の学びたい学科や希望する部活動などから、生徒が自分の希望する学校への進学したものであるが、往復に要する時間を考えると、睡眠時間の短縮や長時間の移動に伴って、身体面である程度の負担が生じていることは間違いないであろう。

(通学費用)

- 次の【資料 18】は、高校生の一か月の平均通学費用について、中学校の所在地及び高校の所在地別に整理したものである。この資料の対象は、通学費用が 0 円と回答した者以外であり、公私を問わず、また、専門学科や総合学科への進学者も含んでいる。表には、大分市内の高校に進学したケースと、それ以外で回答数が多いものを三つ程度抜き出して掲載している。

【資料 18】 高校生の一か月の平均通学費用（中学校の所在地及び高校の所在地別）

上段の単位：円

所在地	高校所在地																
	大分市	別府市	中津市	日田市	佐伯市	臼杵市	津久見市	竹田市	豊後高田市	杵築市	宇佐市	豊後大野市	由布市	国東市	日出町	玖珠町	
中学校所在地	大分市	平均額 8,017	11,080				10,297						9,292				
		回答数 2,341	81				177						53				
	別府市	平均額 9,762	7,017							10,833						10,694	
		回答数 336	269							39						72	
	中津市	平均額 17,348		7,556	12,750						9,231						
		回答数 33		177	20						26						
	日田市	平均額 7,500			5,425												12,500
		回答数 3			159												5
	佐伯市	平均額 13,808				9,272	9,500	11,136									
		回答数 65				79	15	11									
	臼杵市	平均額 10,977					10,000	8,111				7,500					
		回答数 174					44	131				11					
	津久見市	平均額 12,125				10,156	5,694	7,500									
		回答数 40				32	36	10									
	竹田市	平均額 16,500							7,130				8,571				
		回答数 35							54				28				
	豊後高田市	平均額 8,333		11,324						4,397		4,318					
		回答数 12		17						29		11					
	杵築市	平均額 9,524	12,724								7,594					7,742	
		回答数 42	67								53					62	
宇佐市	平均額 15,208		8,011								5,821						
	回答数 24		186								134						
豊後大野市	平均額 10,614							8,458				6,641					
	回答数 175							120				64					
由布市	平均額 10,470	16,250		15,000									7,786			8,750	
	回答数 303	4		4									105			4	
国東市・姫島村	平均額 18,750	18,214								13,176				8,989			
	回答数 8	14								74				94			
日出町	平均額 11,543	9,638								9,580					6,071		
	回答数 115	138								113					56		
九重町	平均額 10,625			12,092												7,794	
	回答数 8			49												51	
玖珠町	平均額 10,181															5,000	
	回答数 69															20	

※「選択肢」を、次の「計算値」に直して、平均を算出

選択肢	計算値	選択肢	計算値	選択肢	計算値	選択肢	計算値
なし	0円	5,000円以上～10,000円未満	7,500円	15,000円以上～20,000円未満	17,500円	25,000円以上～30,000円未満	27,500円
5,000円未満	2,500円	10,000円以上～15,000円未満	12,500円	20,000円以上～25,000円未満	22,500円	30,000円以上	32,500円

※表には、同地域及び回答者数の多い地域3つ程度を記載

- 通学に係る費用は、出身中学校の所在地と同一地域の高校に通学する場合においても、6,000円～10,000円程度かかっていることが分かる。他方、隣接の市町に通学する場合は、地域内の高校に通うよりも2,000円程度多くかかっている状況が見られる。

また、大分市への通学生徒が多い、「臼杵市」「津久見市」「豊後大野市」「由布市」「日出町」では、いずれも10,000円以上かかっている。また、「中津市」「竹田市」「宇佐市」「国東市・姫島村」では、15,000円を超えており、遠距離の通学には、少額とは言えない費用を要している状況である。

## (学校生活に関する保護者としての不安・負担)

- 次の【資料 19】は、高校生の保護者として不安・負担に感じることを、「学校生活面」と「経済面」からそれぞれ一つずつ選択した回答について、まとめたものである。

【資料 19】 高校生の保護者としての不安・負担（公私別進学先地域別）

在籍校	進学先地域	学校生活面								経済面					
		学習成績に関すること	将来の進学・就職に関すること	人間関係に関すること	健康や体調に関すること	通学中の事件・事故に関すること	子どもの送迎にかかる時間に関すること	自然災害に関すること	特になし	学校生活全般にかかる費用に関すること	通学にかかる費用に関すること	上級学校への進学・就職にかかる費用に関すること	住居にかかる費用に関すること	部活動や課外活動にかかる費用に関すること	特になし
県全体	全地域	18.1%	37.4%	12.8%	5.3%	6.3%	2.9%	2.2%	15.1%	16.2%	7.4%	45.3%	2.1%	4.0%	25.1%
	地域内	19.1%	38.6%	12.7%	4.7%	5.8%	1.8%	1.7%	15.6%	16.3%	5.8%	47.2%	1.3%	3.5%	25.9%
	地域外	15.0%	33.3%	13.2%	7.1%	7.6%	6.6%	3.7%	13.5%	16.0%	12.3%	39.3%	4.4%	5.3%	22.7%
県立高校	全地域	18.5%	37.6%	11.7%	5.0%	6.6%	3.0%	1.8%	15.8%	12.5%	7.9%	46.7%	2.0%	4.1%	26.8%
	地域内	19.2%	38.7%	11.8%	4.4%	6.2%	1.9%	1.5%	16.4%	12.8%	6.2%	48.2%	1.5%	3.8%	27.5%
	地域外	15.8%	33.9%	11.3%	6.9%	8.0%	7.2%	3.2%	13.8%	11.4%	14.2%	41.3%	3.8%	4.8%	24.5%
私立高校	全地域	16.6%	36.4%	17.6%	6.6%	4.7%	2.6%	3.5%	12.0%	31.8%	4.9%	39.5%	2.3%	3.6%	17.9%
	地域内	18.5%	38.6%	17.0%	6.1%	3.9%	1.4%	2.8%	11.7%	32.7%	4.2%	42.3%	0.6%	2.1%	18.2%
	地域外	12.4%	31.5%	18.9%	7.9%	6.5%	5.1%	5.1%	12.6%	29.8%	6.6%	33.3%	6.1%	6.8%	17.4%

- 公私別及び進学先地域別にまとめており、「学校生活面」では、いずれの区分においても、「将来の進学・就職に関すること」が最も高く、全体では37.4%となっている。公私別では、「人間関係に関すること」において、私立高校の方が約6ポイント高くなっている。進学先地域別にみると、「健康や体調に関すること」「通学中の事件・事故に関すること」「子どもの送迎にかかる時間に関すること」「自然災害に関すること」において、公私ともに地域外の高校に進学した生徒の保護者の方が不安・負担を感じていることが分かる。特に、「送迎にかかる時間」については、地域内へ進学した生徒の保護者の約3.7倍の回答があり、遠距離の通学に際しての保護者の負担として注目すべき点である。

- 「経済面」では、どの区分においても「上級学校への進学・就職にかかる費用に関すること」が最も高く、全体では45.3%に上っている。「学校生活面」での「将来の進学・就職に関すること」や【資料 10】【資料 12】の「高校選択で重視すること」と併せ、進学・就職が高校生の保護者にとっての大きな関心事であると判断される。公私別にみると、「学校生活全般にかかる費用に関すること」において、私立高校では県立高校の約2.5倍の回答が見られる点が特徴的である。進学先地域別では、「通学に係る費用に関すること」「住居に係る費用に関すること」で、地域外に進学した生徒の保護者の回答割合が高くなっている。【資料 18】のとおり、地域を越えた通学に際しては、月額10,000円以上のケースも多く、単純に、年額で120,000円以上の費用がかかっていると考えると、保護者の負担が大きなものであることが分かる。

- 次の【資料 20】は、中学生の保護者として不安・負担に感じることについて、「学校生活面」と「経済面」からそれぞれ一つずつ選択した回答の結果を、保護者が希望する進学先別にまとめ

たものである。

【資料 20】中学生の保護者としての不安・負担（保護者の希望進学先別）

進路希望	学校生活面								経済面					
	学習成績に関すること	将来の進学・就職に関すること	人間関係に関すること	健康や体調に関すること	通学中の事件・事故に関すること	子どもの送迎にかかる時間に関すること	自然災害に関すること	特になし	学校生活全般にかかる費用に関すること	通学にかかる費用に関すること	上級学校への進学・就職にかかる費用に関すること	住居にかかる費用に関すること	部活動や課外活動にかかる費用に関すること	特になし
全体	19.1%	38.9%	24.7%	3.1%	4.6%	2.9%	0.7%	6.0%	40.6%	6.8%	31.0%	3.9%	3.2%	14.5%
県内県立高校	19.3%	39.9%	24.3%	2.6%	4.6%	3.0%	0.5%	5.8%	39.4%	6.9%	32.8%	3.5%	3.0%	14.5%
県内私立高校	16.7%	34.1%	28.6%	6.4%	3.7%	2.3%	1.4%	6.8%	55.6%	5.8%	16.4%	4.2%	4.5%	13.0%
県外高校	13.4%	35.9%	24.7%	8.2%	4.8%	2.6%	1.3%	9.1%	35.9%	6.5%	20.3%	17.3%	6.5%	13.4%
海外高校	7.1%	28.6%	14.3%	0.0%	7.1%	7.1%	7.1%	28.6%	42.9%	7.1%	21.4%	7.1%	0.0%	21.4%
特別支援学校	5.4%	48.6%	35.1%	0.0%	5.4%	2.7%	2.7%	0.0%	56.8%	5.4%	2.7%	2.7%	0.0%	32.4%
高等専門学校	29.8%	19.7%	25.0%	6.3%	6.7%	4.3%	1.4%	6.7%	38.0%	6.3%	32.2%	4.3%	2.4%	16.8%
就職	22.2%	44.4%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	88.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%

- 「学校生活面」において、高校進学を希望する保護者では、「将来の進学・就職に関すること」が最も高く、【資料 19】の高校生の保護者による回答と同じ傾向である。県外高校を希望する保護者では、県内の学校を希望する保護者よりも「健康や体調に関すること」が高く、「学習成績に関すること」の割合が低い。これは、【資料 12】で県外高校の選択理由として「子どものやりたい部活動があること」の割合が高いこととも関係があるのではなかろうか。
- 「学校生活面」での不安については、高校生の保護者、高校進学を希望する中学生の保護者とも、「将来の進学・就職に関すること」が最も高い回答割合となっており、全体の約 4 割である。このことは、高校に対して、将来の進学指導、就職指導が適切に行われることへの期待の高さの表れだと捉えてよいであろう。生徒一人ひとりが、学習活動や特別活動等を通して、将来に役立つ力を身に付けること、そして自分の将来を切り開くことを保護者は望んでいる。各高校における出口指導の在り方は、その高校が持つ魅力の一つであると言えよう。

## (2) 魅力を高めるための学び

### (学びへの期待)

- 次の【資料 21】は、県立高校に在籍している生徒による、高校の魅力を高めるために重視するとよい学びに関する回答を、在籍学科別にまとめたものである。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から二つ以内で選択することを求めている。

【資料 21】 県立高校の魅力を高めるために重視するとよい学び（在籍学科別）

学科	先端科学技術についての学び	大学・企業と連携した学び	自分の興味・関心や進路に応じた探究的な学び	就業体験（インターンシップ）などによる体験的な学び	難関大学進学に対応した学び	国際感覚やコミュニケーション力を身につける学び	情報化社会に対応できる人材に必要な力を身につける学び	地域を支える人材に必要な力を身につける学び	芸術・文化などを通じた感性や高度な表現力を身につける学び	中学校までの学習内容の定着を図る学び
全学科	14.7%	22.9%	31.7%	12.8%	5.2%	5.4%	1.9%	2.0%	1.8%	1.6%
普通科	11.9%	24.3%	32.0%	11.3%	7.3%	5.9%	1.9%	1.9%	1.8%	1.5%
農業系学科	17.7%	13.1%	36.5%	16.0%	1.1%	2.5%	2.3%	4.6%	2.6%	3.6%
工業系学科	26.7%	22.5%	27.3%	14.2%	0.9%	3.6%	1.4%	1.7%	0.8%	0.8%
商業系学科	13.4%	20.9%	30.0%	20.1%	1.3%	6.8%	2.9%	1.5%	1.3%	1.7%
水産系学科	12.7%	18.3%	39.4%	15.5%	1.4%	5.6%	4.2%	1.4%	1.4%	0.0%
家庭系学科	10.9%	6.3%	50.0%	18.8%	0.0%	7.8%	3.1%	0.0%	1.6%	1.6%
福祉系学科	12.9%	18.3%	36.5%	10.0%	1.7%	6.6%	1.7%	7.9%	1.2%	3.3%
芸術系学科	3.2%	18.0%	35.4%	10.1%	4.2%	7.4%	1.6%	2.6%	15.9%	1.6%
情報系学科	34.8%	18.3%	18.9%	15.9%	0.6%	5.5%	3.7%	1.2%	1.2%	0.0%
総合学科	12.2%	23.2%	37.2%	12.0%	4.7%	3.8%	1.4%	1.5%	1.7%	2.3%
外国語系学科	3.8%	7.5%	47.2%	20.8%	7.5%	11.3%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%
理数科	27.9%	22.1%	20.6%	8.8%	7.4%	7.4%	1.5%	1.5%	1.5%	1.5%

※ 回答は県立高校に在籍している高校生による

- 全体でほぼ3分の1にあたる生徒が、「自分の興味・関心や進路に応じた探究的な学び」と回答している。現在、各県立高校においては、総合的な探究の時間の充実を図り、その学習活動を通して、自ら課題発見・解決する能力の育成を図っている。これは、正解がないといわれる今後の社会の在り様から妥当なものであり、生徒のニーズにも合致したものと言えよう。
- 普通科、外国語系学科及び理数科では、「難関大学進学に対応した学び」を挙げる声が、他学科に比べて多い。それぞれの学科で1割には満たないものの、県下の各高校でその声があることから、どのような地域においても難関大学進学を目指すことができるような環境整備が必要と思われる。地域の学校では、規模が小さくなり、教員の数が増える可能性がある。そのような中、多様な生徒の状況に応じて教育を提供する上で、現在、推進されている遠隔教育には大いに期待するところである。
- 次の【資料 22】は、高校進学を志望する中学生による、高校進学後に取り組みたい学びに関する回答を、公私別及び進学希望地域別に整理したものであり、【資料 23】は、県立高校への進

学を志望する中学生による回答を、第一志望学科別に整理したものである。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から二つ以内で選択することを求めている。

【資料 22】中学生が高校進学後に取り組みたい学び（公私別進学希望地域別）

進路希望		先端科学技術 についての学 び	大学・企業と 連携した学 び	自分の興味・ 関心や進路に 応じた探究的 な学び	就業体験（イ ンターシッ プ）などによ る体験的な学 び	難関大学進学 に対応した学 び	国際感覚やコ ミュニケー ション力を身 につける学び	情報化社会に 対応できる人 材に必要な力 を身につける 学び	地域を支える 人材に必要な 力を身につけ る学び	芸術・文化な どを通じた感 性や高度な表 現力を身につ ける学び	中学校までの 学習内容の定 着を図る学び
全体		7.5%	11.6%	34.7%	8.1%	6.3%	8.9%	6.8%	3.4%	5.1%	7.6%
地域内	県立	7.5%	12.4%	33.7%	8.1%	6.4%	8.8%	6.9%	3.3%	4.7%	8.2%
	私立	7.1%	7.8%	38.0%	9.3%	1.7%	9.0%	5.9%	4.8%	7.4%	9.0%
大分市内	県立	8.4%	12.2%	34.1%	7.5%	8.2%	8.3%	7.3%	3.0%	4.6%	6.4%
	私立	6.7%	7.7%	39.3%	9.8%	1.8%	9.4%	6.1%	4.1%	7.5%	7.6%
地域外	県立	6.5%	11.7%	34.6%	7.5%	6.9%	9.7%	6.7%	3.8%	4.8%	7.8%
	私立	6.1%	10.0%	37.3%	11.5%	2.8%	9.8%	5.1%	5.2%	5.1%	6.9%
県外	県立	6.2%	8.2%	37.4%	9.2%	6.6%	12.8%	3.6%	3.9%	5.2%	6.9%
	私立	5.6%	13.2%	40.3%	5.9%	2.8%	11.1%	5.2%	1.7%	5.9%	8.3%

※ 回答は「中学校卒業後の進路」について「高等学校」を選択した中学生による

【資料 23】中学生が県立高校進学後に取り組みたい学び（第一志望学科別）

学科	先端科学技術 についての学 び	大学・企業と 連携した学 び	自分の興味・ 関心や進路に 応じた探究的 な学び	就業体験（イ ンターシッ プ）などによ る体験的な学 び	難関大学進学 に対応した学 び	国際感覚やコ ミュニケー ション力を身 につける学び	情報化社会に 対応できる人 材に必要な力 を身につける 学び	地域を支える 人材に必要な 力を身につけ る学び	芸術・文化な どを通じた感 性や高度な表 現力を身につ ける学び	中学校までの 学習内容の定 着を図る学び
全学科	6.6%	12.7%	33.8%	7.9%	7.1%	9.1%	6.7%	3.3%	4.7%	8.1%
普通科	4.7%	14.7%	33.0%	6.5%	9.7%	9.6%	5.4%	2.8%	4.1%	9.5%
農業系学科	8.4%	5.2%	36.8%	14.5%	0.6%	5.5%	4.2%	9.4%	5.8%	9.7%
工業系学科	16.6%	9.7%	35.7%	12.4%	1.0%	4.5%	7.0%	5.4%	3.1%	4.6%
商業系学科	5.9%	9.3%	35.0%	14.8%	0.6%	9.6%	12.6%	3.3%	4.0%	4.8%
水産系学科	6.1%	2.0%	46.9%	16.3%	0.0%	6.1%	0.0%	6.1%	8.2%	8.2%
家庭系学科	3.5%	7.1%	37.6%	16.5%	0.0%	7.1%	4.7%	7.1%	8.2%	8.2%
福祉系学科	4.3%	5.8%	40.6%	15.9%	0.0%	10.1%	2.2%	11.6%	2.9%	6.5%
芸術系学科	2.9%	2.9%	38.3%	1.2%	1.2%	2.5%	0.8%	0.8%	47.7%	1.6%
情報系学科	20.3%	6.4%	27.8%	5.3%	0.5%	5.8%	27.6%	1.5%	1.7%	3.1%
総合学科	2.7%	10.5%	39.3%	9.0%	4.3%	12.7%	5.8%	3.6%	5.2%	7.0%
外国語系学科	1.8%	4.5%	28.6%	6.3%	0.9%	42.9%	4.5%	0.9%	8.9%	0.9%
理数科	16.8%	16.0%	32.0%	3.2%	12.8%	6.4%	4.8%	0.0%	3.2%	4.8%

※ 回答は「中学校卒業後の進路の第一希望」について「県立高等学校」を選択した中学生による

- 【資料 22】から、高校生と同様、中学生においても「自分の興味・関心や進路に応じた探究的な学び」に取り組むことを期待していると分かる。県立高校の学科別にみると、【資料 23】から、普通科や理数科で「大学・企業と連携した学び」に取り組みたいとの意見が多いことがわかる。自分の将来の進学や就職を見据え、大学や企業と連携して、実社会に繋がる学習に取り組みたいとの期待の表れであろう。

○ 平成 28 年度から、地域の県立高校においては、高校魅力化事業に取り組んでいる。この中で、地元企業や官庁等の支援によって、地域課題の解決に向けた生徒の探究活動が充実するよう、コンソーシアムを構成して、地域連携が図られている。地域をフィールドとしながらも、生徒の進路志望や今後の在り方生き方に繋がる汎用性のある探究活動がなされるよう、その環境を提供することで、生徒一人一人のニーズに応えることができよう。

また、この魅力化事業では、そうして高められた、魅力的で特色のある教育活動を、地域や中学生及び保護者に対して、積極的に情報発信することにも取り組んでいる。各高校においては、後述する【資料 25】の「中学生の進路選択の際の情報源」などを参考にしながら、各学校の特色を中学生に周知して、中学生の進路選択に資するものにするとともに、期待をもって高校での探究活動に取り組むことができるよう努めることが必要である。

○ 「難関大学進学に対応した学び」については、【資料 22】から、大分市内の県立高校に対する期待が、私立高校及び他地域の県立高校よりも高いようである。この項目について、【資料 23】で、学科別に見ると、普通科 9.7%、理数科 12.8%となっており、他学科よりも極めて高い割合である。【資料 11】において、中学生が高校選択に際して重視することの回答で「進学・就職実績が良いこと」の割合が全項目中で最も高いことから、高校卒業後の将来を見据えて学校及び学科選びをしており、普通科や理数科へと進学を希望する理由の一つに選抜性の高い大学への入学を目指した学習に期待している生徒が一定数いることが分かる。

### (3) 学校の魅力の発信

#### (進路選択において有効な情報源)

○ 次の【資料 24】は、高校生に対して、「高校を決めるうえで、有効であったと思う情報源は何か」について質問した回答の状況である。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から二つ以内で選択することを求めている。

【資料 24】 高校生の進路選択の際の情報源

対象	高校が開催する学校説明会(体験入学・オープンキャンパス等)	高校からの配布物(パンフレット・学校新聞・チラシ等)	高校のホームページ	高校が発信した SNS	高校生等からの SNS 等による情報発信	テレビの広報番組	高校に関するインターネット情報(口コミ等)	高校生の取組の発表会や高校生による出前授業	新聞等による高校生の活躍記事	中学生と高校生との合同の活動や行事	中学校が開催する複数の高校による説明会	中学校の先生からの情報	塾からの情報	中学時代の先輩や友人からの情報
高校生	31.4%	13.1%	10.0%	2.2%	1.3%	0.4%	3.9%	0.8%	0.5%	1.4%	2.9%	13.4%	6.8%	12.1%

- 最も多い回答は、「高校が開催する学校説明会」で、31.4%であり、全体の約3割となっている。「中学校の先生からの情報」「高校からの配布物」がそれぞれ13%台で続いており、高校には、これらの回答を参照にして情報発信の方法について検討し、選ばれる学校となるよう学校の魅力や特色を中学生に確実に伝える工夫が必要である。
- 中学生は多様な情報を自ら集め、自分で選択、決定できる時代になっている。「高校が開催する学校説明会」を学校選びにおいて最も参考としていることから、例えば、学校ごとに日程をずらして、中学生が様々な高校を見比べられるよう配慮するなどして、それぞれの高校の違いを、しっかりと見せることが大切であろう。
- 次の【資料 25】は、中学生に対して、「中学校卒業後の進路先を選ぶ際に、主にどのような情報源を活用するか」について質問した回答の状況である。なお、アンケートでの当該質問においては、選択肢の中から二つ以内で選択することを求めている。

【資料 25】中学生の進路選択の際の情報源

対象	高校等が開催する学校説明会(体験入学・オープンキャンパス等)	高校等からの配布物(パンフレット・学校新聞・チラシ等)	高校等のホームページ	高校等が発信する SNS	高校生等からの SNS 等による情報発信	テレビの広報番組	高校に関するインターネット情報(口コミ)	新聞等による高校生等の活躍記事	高校生等の取組の発表会や高校生等による出前授業	中学生と高校生等の合同の活動や行事	中学校が開催する複数の高校等による説明会	中学校の先生からの情報	中学校の先輩からの情報	塾からの情報	先輩や友人からの情報
中学生	28.0%	12.2%	13.2%	0.0%	4.1%	0.9%	6.5%	0.6%	0.5%	1.3%	1.8%	7.1%	5.0%	5.2%	13.7%

- 現代は、SNS の利用等により、友人や先輩等との交流は容易になり、かつ広範にわたるものとなっている。現在の中学生の進路決定においても、従前の「中学校の先生からの情報」に加え、「先輩や友人からの情報」「中学校の先輩からの情報」「高校生等からの情報発信」など、多岐にわたり、かつ絶えずリニューアルされる情報を活用していると見られる。
- 地域の中学校においては、地域の高校の維持・活性化の観点から地域の高校への進学を中学生に勧める一方で、生徒の学習成績に応じて地域外の高校を勧めるなどの状況があるようである。多様な情報が入手可能な現代において、中学生は進路学習の中で、さまざまなツールで情報を集めて、自分の進路を検討している。他方、保護者も様々な高校の情報を集めながら子どもの進路を考えている状況である。どの学校を選択するかはもちろん、どの学科を選択するかは、生徒の将来にとって大切な節目とも言えよう。

そのため、まずは、県教育委員会が、各高校の多様な学びについて整理し、一元的に情報発信するなどの工夫が必要であろう。中学校には、それらを参考としながら、各高校の特色や、専門学科での学びについて生徒、保護者と共有し、生徒一人ひとりが自身の個性や将来の希望とのマッチングを図った高校選択ができるよう指導・支援をお願いしたい。

## 4. 検証のまとめ

### (1) 今後の通学区域制度の在り方

- 通学区域制度の変遷及び本委員会の設置の経緯等は、「1. 答申にあたって」に記載のとおりである。本検証を通して、生徒の主体的な進路選択を促すこと等を趣旨とする全県一区のメリットについて、全委員から異存はなく、一方で、少子化が急激に進む中での地域の姿に思いを巡らせたとき、地域に活力を生む高校という観点から、地域の子どもが地域で学び、地域を支えることの大切さにも、全委員から異存はなかった。
- 現在は、一市一校の地域など、地域からの支援、地域との連携・協働によって教育活動が展開されている学校も多く、上述のとおり、地域の子どもが地域で学び、地域を支える枠組みは、生徒の学びを豊かにするとともに、地域の活力を生み出すものとして、大切であるのは言うまでもないであろう。
- 県立高校の校長を対象としたアンケートで、全県一区を希望する校長が約半数にとどまっている。記述による回答からは、多くの校長が、進路選択の幅の拡大を趣旨とする全県一区の理念には賛同しながらも、地域の活性化の観点から懸念を抱いているということが分かった。地域の学校では、平素の教育活動の充実に加え、定員充足に向けた生徒募集や情報発信に注力している状況も見られる。他方、大分市内の県立高校を志望する生徒にとっては、大分市内の県立高校の入試倍率が上昇し、地域の高校で定員割れをする状況に、受験の厳しさを感じる部分もあろう。  
これらの課題に対して決して目を背けず、改善策を十分に検討して、生徒の主体的な進路選択を妨げない制度の在り様を模索することが求められる。
- 先の「アンケート調査結果」からも分かるが、中学生は、いろいろな観点から高校選びを行っている。自身の高校卒業後を見据えて、多様な選択肢から自ら地域外の高校を選び、学習や部活動を通して自分を高めたいという思いを抱いている中学生もいれば、地域の中で学ぶことを自ら選択する生徒も決して少なくはない。本県では、多様な選択肢から、生徒が自己決定の中で、しっかり高校選びができていく状況にあると見られる。
- 生徒の様々な能力や適性、学習への意欲や部活動への期待など、様々な観点から、生徒が自由に、そして主体的に進路選択をするという経験は、若者の人間形成において大切なものである。そして、一人ひとりにそのような経験を提供することは、今後も大分県教育にとって重要な視点となる。よって、全県一区の理念は大切にすることが望ましいであろう。
- とはいえ、現行のまま改める必要はないと言うのではない。これまでの通学区域制度に係る諸

議論では、「全県一区」と「分割通学区域制度」とを二項対立の構図としてきた感があるが、それらを柔軟に組み合わせることも考えられよう。全県一区を入試制度のベースとしながら、例えば、特定の選抜方法においては、通学区を設けるなどして、地域の生徒が、地域の学校を選択しやすくする制度設計もあり得るであろう。その上で、地域の学校の魅力をさらに高め、教育の質の向上を図っていくことが必要と考える。

## (2) 今後求められる取組

### (今後の県立高校の在り方の検討)

- 令和5年度の出生数をみると、本県の高校生年代の数は、現在の約29,800人から、15年後には約20,300人へと約9,500人の減(32%減)となる。これは、現在の県立高校でいうと、大規模校の約10校分の人数となる。将来的に、学校再編によって県立高校の数を減らすのか、あるいは、学校の数をある程度維持しつつ、各校の定員を削減することで対応するのかの基本方針を定めることが必要な時期に来ている。
- 令和7年3月には高校教育の無償化について与野党3党で合意され、同年4月から公立・私立を問わず就学支援金の所得制限を撤廃して、公立高校を実質的に無償化することとした。また、翌令和8年4月から、私立高校を対象に加算されている就学支援金の上限額の所得制限を撤廃して、私立の全国平均の授業料に引き上げることとしている。県立高校、私立高校とも授業料が無償化されれば、自由度が高く、ユニークな教育を展開できる私立高校への進学希望者は増加することになる。現に、先行して授業料の無償化が進められている大阪府や東京都では、公立高校の志願割合が低下しており、定員割れする公立高校が相次いでいる。
- 少子化が急速に進む中、生徒の進路選択が多様化し、通信制を含む県外私立高校への進学割合が増加傾向にあることに加え、授業料の無償化がこれからの高校選択に与える影響は、今後顕在化してくることを考えると、現段階で、今後の県立高校の在り方について結論を出すことは容易ではないであろう。しかしながら、社会の状況が刻一刻と変化し、先を見通し難い中であっても、県教育委員会には、今後の大分県教育の未来図を描く責務がある。令和6年3月に、今後10年間の方針として、「大分県立高等学校未来創生ビジョン」を策定したところであるが、是非、10年先、さらにはその先も見据えて、県立高校の再編の方向性も含めた将来像を、具体的に示していただきたいと考えている。
- 本委員会での協議に際して、各高校の定員充足の状況に関する資料が示され、地域の高校の定

員充足に向けた方策について、さまざまな意見が述べられる中、地域の中学校卒業予定者数が減少する状況下では、定員未充足に拘り過ぎない方がよいのではないかとの意見も数多く出された。定員充足に拘らないならば、生徒募集にかかる時間が縮減でき、生徒と向き合う時間をより確保できるため、充実した教育活動が展開される学校としての魅力向上が期待できるとの理由である。また、定員充足状況に拘って、今後の高校の在り方を考える場合、地域にとって本当に必要とされる高校を奪い、地域の衰退に拍車をかける可能性があるとする意見もあった。

- 現在の県立高校においても、学校運営協議会を設置して、コミュニティ・スクールとし、地域の代表が入って、将来のまちづくりに即した人材育成に関する意見が、高校運営に反映されるような体制の構築が考えられる。産業界や、自治体など幅広い分野を取り込んだコミュニティ・スクールの在り方を考え、地域全体で高校を支えていくような体制を作ることが必要となるであろう。
- 学校再編の方向性だけでなく、将来の高校の姿が見えるようにすることが求められている。今の小学生、あるいは産まれたばかりの子どもたちが高校生になる頃には、本県の公教育はどのような姿になっているか、今後、地域で暮らす上で、どのような未来を思い描くことができるのかを、県教育委員会には示していただきたい。

### **(魅力化・特色化の推進)**

- 今後、少子高齢化が急速に進む中で、それに即した高校運営のあり方を考える必要がある。大学に進学して学ぶことは大事であり、一方で、地元の企業に就職して、地域を支えていくことも非常に重要である。大分県では、人口の43%程度が大分市に居住しているため、大分市にはいろいろなタイプの高校があるのは、ごく自然なことである。一方で、地域には地域ならではの魅力がある。その地域にしかない魅力を生かした、大分市にはないタイプの学校づくりを進めていくべきであろう。
- その際、例えば、SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）やDXハイスクールなど、国の事業を学校の特色づくりに活用して、地域と連携する枠組みを構築し、地域を巻き込んだ学校づくりを進めることが考えられる。また、地域の取組を学校の教育活動の一部として活用することも考えられる。例えば、市が主催する市民講座において、一流の著名人の講演会が開かれるならば、それにホームルーム活動として参加し、地域の人々とともに聴講するといったことも、高校の魅力向上の一つの方策となるであろう。
- また、高校の魅力を高めるうえでは、何とんでも、学びの魅力を高めることが不可欠である。厚生労働省による21世紀出生児縦断調査では、高校生になると「ためになる授業がたくさんある」、「楽しいと思える授業がたくさんある」、「学校の勉強は将来役に立つと思う」の項目

で、「とてもそう思う」及び「まあそう思う」の割合が減少し、それに伴って「学校外で勉強しない」の割合が大幅に増加している。皆が同じことを、同じ方法で、先生主導によって学ぶという予定調和的な授業は、生徒に退屈を感じさせるため、もはや通用しない。答えを探さずに創っていく探究的思考やチェンジメーカーとなるのに必要な共感力や創造力を育成するような探究学習へと転換することが必要である。

- 探究的な学びは、生徒の力を伸ばすという意味で、非常に重要であるが、本県では、まだまだ改善の余地は大きい。他県では、高校段階で大学の授業に参加するなど、高大連携によって大学のサポートを受けているケースもある。地域の高校においては、例えば、大人数でないことを生かして、遠隔システムを上手に活用し、他地域と交流するなどして生徒を伸ばすという手法も考えられる。
- 現状で言うと、公共交通機関等の利便性が高い地域からは、公立私立とも、一定数の生徒が大分市内の高校へと進学をしている状況である。しかし、見方を変えれば、大分市内から通学圏内の地域の高校への進学も可能ということである。大分上野丘高校や大分舞鶴高校への進学については、確かに大分市外出身の生徒の比率が上がってきているという事実がある。これらの学校については、難関大学への進学の可能性という特色を持っており、それを目指す生徒が選択肢とするのは必然であろう。一方で、本県の子どもの中には、大学卒業後に地域で就職して、地域で活躍する者も多い。そういった希望を持つ若者の育成に強みを持つことも学校の特色の一つとなる。そうすることで、大分市から地域の高校へと進学を志す生徒が増加することも考えられよう。
- その点において、県教育委員会が、各高校について、学力だけでなく、多面的な評価、多面的な価値観を積極的に発信することが必要である。一つの評価軸として、進学校における難関大学合格者数の実績を強く発信しすぎると、情報の受け手である生徒や保護者は、その観点に引きずられる可能性がある。社会で活躍している人たちは、決して難関大学に対応する学力だけで評価されているのではないということを踏まえて、今後の学校評価や情報発信の在り方を考えていくことが大切である。
- 社会で活躍する人材の育成という点から言えば、専門学科における多様な普通教科・科目の開設についても積極的に検討いただきたい。近年では、例えば、工業科から工学部の大学へと進学する者など、専門学科から上級学校へと進学する割合が上昇傾向である。推薦入試や総合型入試での進学に際しては、必要としない教科・科目であっても、その分野の理解が大学入学以降で必須となることも多いようである。先のアンケートから分かる通り、「進学・就職」は生徒・保護者の最大の関心事ではあるが、決してそこがゴールではない。是非、進学・就職後も学び続ける素地を作るための教育課程を講じ、学校の魅力ある学びの一部としていただきたい。

- 部活動も、学校の重要な魅力となりえる。地方の高校においても、学習はもちろんだが、部活動の強化などに引き続き、県を挙げて取り組んでいく必要がある。地域の高校において、多様な部活動の設置は困難かもしれないが、このスポーツはこの高校だというように、特色化が進むとよいと思われる。
- トイレや空調設備などの、生徒が日常的に使用する施設・設備も、快適な学校生活を送るうえでの大きな魅力の一つである。県立高校においても、徐々にトイレの洋式化が進み、また、夏季の気温上昇時の生徒の安全面への配慮から、体育館の空調の整備も進んでいる。県立高校では、全校一斉に施設の整備を進めるということは難しいであろうが、災害時の避難所としての活用など、地域における学校の役割の大きさを考えると、避難所となっている地域の学校から優先的に整備するということも考えられよう。
- 学校の魅力や特色は、内部の人間がそれを享受するのはもちろんだが、それが地域など外部に認識されることによって、当該高校の存在価値を高めることとなる。学校外での活動、学校内への招待、学校外との協働によって地域と繋がることで、学校が持つ魅力を発信することが重要である。
- 情報収集にも注力されたい。他校における魅力化、魅力発信の好事例を収集して、自校に活用することや、各地域の生徒や保護者が進路選択に際して重視することを把握、分析して、自校の魅力づくりに生かすことなども重要なことであろう。

#### **(大分県立高等学校入学者選抜の工夫・改善)**

- 本委員会において協議の中心としたのは、普通科の全県一区についてであるが、普通科のみではなく、地域の専門学科においても欠員が増加しており、県立高校全体で欠員が増加傾向となっている。令和7年度入試において、一次入試の受験倍率が、初めて1倍を切る状況となった。欠員の生じた全日制高校は県全体で39校中23校であり、大分市・別府市以外の高校では、24校中19校となっている。県内私立高校への進学、通信制課程を含む県外高校への進学者増は、これまでの分析のとおりであるが、社会状況や生徒・保護者のニーズが変化し、県立高校二次入試の志願者数が減少する中では、「推薦入学者選抜」「第一次入学者選抜」「第二次入学者選抜」といった従来の枠組みではなく、新たな入学者選抜の仕組みを検討する時期が来ている。
- 他県では、「特色入試（自己推薦型入試）」「第二志望制」など、さまざまな入試制度が導入されている。入試制度は、各都道府県の実情に応じたものとして、従前行われているため、これらの制度を、本県に単純に取り込んだのでは、うまく機能しない可能性がある。よって、本県の状況に照らして、形を変えながら導入を試みるなど、県立高校入学者選抜について、早急に、工

夫・改善を試みていただきたい。

例えば、特色入試において、居住する地域の学校で学ぶことを希望する生徒が、遠方への進学を強いられることなく、地域で学ぶチャンスを十分に得られることができるようにする仕組みや、学校の魅力化・特色化の実現状況に応じて、学校の特色ある学びに対応する生徒を推薦入学 者選抜のみで選抜する方法などを検討する余地があろう。また、国において「デジタル併願制」の導入が検討されているが、一次入試で定員が充足していない高校を対象として生徒募集している二次入試に代わって、第二志望制を導入することにより、一度の入試で複数校受験できる仕組みを講じることも考えられる。

### (義務教育段階でのキャリア教育や中学校での進路指導)

- 各高校の魅力や特色について、多様なツールやチャンネルによって情報が入手可能な今、生徒は主体的に情報を収集して進路決定に役立てており、保護者も様々に高校の情報を集めながら子どもの進路について検討している。そのような中でも、中学校の先生方が進路指導において果たす役割は小さくない。

アンケート調査において、まだ受験を経験していない中学生が、「高校選びに役立てたい情報源」として、「中学校の先生からの情報」と回答した割合が5.0%であるのに対して、すでに受験を経験した高校生が「中学校の先生からの情報」と回答した割合は13.4%となっている。受験期に、学級担任や進路担当教員との進路面談等によって助言を受けながら、受験校を決定していくという経緯がこの回答割合の違いを生じさせているのだとすれば、教員と生徒、保護者が各学校・各学科の特徴を共有して、生徒の個性や適性、将来の希望等とを勘案しつつ進路選択をサポートできるかは、とても重要であると考えられる。中学校の教員には、それぞれの普通科高校の探究的な学びの特徴や専門学科での学び、高校卒業後の進路等、様々な情報を取得する機会が必要であろう。

- 高校側からも、中学生のキャリア意識の向上と主体的な進路選択に資するよう、適宜、情報提供することが求められる。中学生の早い段階で、仕事に興味・関心を持つ機会を作ること、高校の進路選択や入学後の資格取得、大学進学などの動機づけができ、学習意欲が高まったという事例が、県内にも多数ある。様々な経験をした人や高校の先生から探究的な学びや先端的な学びについて話を聞く機会があれば、子どもたちが興味を持って、高校選びができるであろう。また、地域の経済団体や事業所等と連携したキャリア教育によって、子どもたちが自身の身の回りについて知り、将来を考えるきっかけともなろう。

しかしながら、現状では、多様な選択肢の中から、自分の将来像や適性に応じて進路を考えることができるように十分な情報提供がなされているとは言い難い。探究的な学びを通して身に付けた力が、大学入試や将来にどう生かされるか、どう社会に役立つかという情報が中学生には届いていない中での進路選択となっている感がある。

進路を考える際に、学力以外の物差しを受験生が持つことは重要である。例えば、自分の人生

を豊かにする学びという物差しを持てば、多様な集団での学びに価値を感じるようになるであろう。社会に出れば、多様な人との摩擦の中で生きることが増えるため、この摩擦を高校時代に経験し、乗り越えることは、人生を豊かにするという点で重要である。だからこそ、意図的にそのような機会を仕組む必要がある。例えば、普通科高校の生徒が農業科の生徒と協働して農業に係る課題を考察することや、大学生とともに探究活動を行うことなどもそれにあたるであろう。多様性を受け入れる学校、多様性を生かす学校は、人生を豊かにする学びを提供する高校として、そこで学ぶ魅力や意義を、中学生により積極的に伝える必要がある。

- 中学生の情報収集に偏りがあることも考えられる。生徒は、自分の知りたい情報には積極的にアプローチするが、関係ないと考えていることにはあまり手を伸ばさない。ところが、自分では関係ないと考えていたことに、自分の適性があるということもあろう。未知のことに触れ、大いに興味・関心を喚起されることもあろう。特定の狭い情報だけに触れるのではなく、本県の県立高校の全体像をつかんだり、無意味だと感じられるような幅広い情報に触れたりすることも重要である。県教育委員会では、各校の情報や、各学科の情報を一元的に掲載したホームページやリーフレットの作成、SNSによる情報発信、複数の情報を収集できるような場としての合同説明会の実施など、見て触れて感じ、自分の幅を広げられるような機会を提供し、自分で選択をする後押しをすることも必要である。

- 中学校での進路指導が、生徒の学力という視点のみから行われた場合には、高校入学後に、高校から足が遠のいてしまう結果をもたらす可能性もあろう。高校入学後に行われる面談において、「先生や保護者から勧められたが、来てみたら全然イメージと違った」や「成績で学校を選んだが、遠距離の通学が難しい」などとして、不登校や中途退学になるケースもあるようだ。

高校からは適切に、丁寧に情報発信すること、体験入学など実際に学校を感じる場面を提供することが必要である。中学校では、生徒が多様な選択肢の中から、自分の生き方や将来を考える機会を提供しながら、将来像に見合う高校について、ともに考え、適切に支援することが大切である。生徒には、自分の将来をイメージしながら、学習成績のみによらない高校選びが必要であろう。

#### **(遠隔教育の充実)**

- 全県一区で県内各地域から難関大学を目指す生徒が特定の高校に集まり、切磋琢磨する環境が生まれ、高いレベルの進学実績が生まれている。一方で、地域の高校においては、学習の習熟度の幅が広がり、習熟度別のクラス編成が難しい状況が生じていることから、県内のどの地域でも多様で質の高い教育を提供できる仕組みとして、遠隔教育の充実が必要と考える。
- 高校3年間の時間は、すべての高校生にとって等しい。通学時間に多くを費やすことで、睡眠時間や学習時間、趣味などに充てる時間が十分には確保できないこともあり得るであろう。遠距

離の通学は、本人及び保護者の選択であるとはいえ、遠隔教育の導入が、生徒の時間の有効活用につながるのであれば、それは魅力的なことだと考えられる。

○ また、地域の高校にとっても一定の意義があるだろう。大分市以外の高校では、欠員が生じている状況から、入学生徒の成績分布が広がっていると考えられ、教員も多様な生徒に対する一斉の学習指導には苦勞されている状況だと思われる。そのため、幅広い学力層の中のボリュームゾーンに焦点を当てた授業が展開されることが多いであろう。一人一人の生徒にとっては、自分の理解度等に応じて学力の育成を図ることのできる学習の機会が必要であり、アンケート調査において「難関大学進学に対応した学び」に取り組みたいとする成績上位者には、それに合う教育を提供することが求められる。各学校においては、このような場合には、添削指導などによって個別の学びを提供しているところであるが、習熟に応じた遠隔授業が展開されることによって、より効果的に学習指導ができ、生徒の満足度を上げることが可能であろう。

○ 将来的には、地域の高校を中心として学校規模が小さくなる中、工業、農業などの専門科目において、教員の配置がますます難しくなることが想定される。地域の産業を支える人材の育成の観点から、地域の専門高校に向けて、専門科目の授業が大規模校から配信され、生徒のニーズに対応する質の高い学びが提供できるような仕組み作りも検討することが必要となろう。

今後の県立高校の在り方の検討と並行して、どのように各学校、各学科の教育の質の担保を図るのかを検討いただきたい。

## 5. 最後に

- 本委員会は令和6年9月12日に第1回を開催し、翌年の5月19日まで4度にわたって会を開いて、検証を進めてきた。県教育委員会が準備した各種資料を客観的に分析しつつ、各界からお集りの委員の意見を聴取して、まとめたのが本答申である。
  
- 本委員会が設置されたおよそ9か月の間に、本件に関する状況は大きく変化したとって過言でない。まず、高校の授業料の無償化が国会において議論されたことが挙げられる。令和7年度から公私を問わず、就学支援の対象となる所得について、その制限が撤廃されることとなり、来年度には、私立高校の支援の上限額が、私立の平均授業料の45万7000円に引き上げられ、実質授業料が無償化することが決定している。これによって、施設・設備が充実し、特色ある教育を展開する私立高校への進学者増が予想されている。

また、3月に実施した令和7年度大分県立高等学校第一次入学者選抜においては、最終志願倍率が過去最低の1.02倍となり、一次入試の受験倍率では、初めて1倍を切るなど、県立高校の志願者減が一層進んだ状況が見られた。
  
- 本委員会では、平成20年度の全県一区導入以前から現在に至るまでのおよそ20年間の動向と、直近の社会の動向と今後の予測を踏まえつつ、多面的・多角的な検証を行ってきた。本委員会での検証は、この答申をもって終了することとなるが、少子化に伴う人口減少の加速が予想される中、高校教育の在り方も社会情勢の変化に応じて、適時に的確な対応をとることが求められる。県教育委員会には、今後とも、大分県立高等学校における魅力ある学校の実現に向けて、時代の流れをしっかりと注視しつつ、地域や生徒、保護者の声に耳を傾け、地域等と密に連携して、必要な取り組みを果敢に進めていただくことを期待している。

令和6年9月12日

通学区域制度検証委員会 委員長 殿

大分県教育委員会教育長  
山 田 雅 文

### 大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について

次の事項について、理由を添えて諮問します。

- 1 通学区域制度の在り方に関することについて
- 2 地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関することについて

(理由)

県教育委員会では、平成16年度に、生徒の減少による小規模校の増加などを背景として、「高校改革推進計画」を策定し、通学区域制度については、平成20年度入試から普通科の全県一区制度を導入しました。これにより、従前の専門高校・学科における全県一区制度と併せて、県内のすべての中学生がその居住地に関わらず、希望する進路に進むことができるよう、中学生の主体的な進路選択を制度では縛らない仕組みとしているところです。

平成25年度には、この「高校改革推進計画」の進捗について、「高校改革フォローアップ委員会」によって検証され、生徒にとって真に望ましい高等学校の整備に向けた報告がなされたところです。

以来、県教育委員会として、高校教育改革のための施策を実施してきたところですが、さらなる社会の変化や地域の実情など、高校を取り巻く状況を踏まえ、これからの時代を、たくましく生き抜いていく生徒の学びを支えるための魅力ある高等学校づくりについて、今後10年間の方向性を示すものとして「大分県立高等学校未来創生ビジョン」を策定、公表しました。この中で、現行の全県一区域制度に関しては、地域を越えた高校進学状況や、学校の特色づくりの状況、生徒や保護者の声等、現状の把握に努め、検証することとしています。

つきましては、大分県立高等学校における魅力ある学校の実現に向けて、通学区域制度の在り方、高校の魅力づくり、県内どの地域の高校でも質の高い教育を提供できる環境についてご審議いただきたく、諮問するものです。

## 通学区域制度検証委員会 設置要綱

### (設置)

第1条 大分県立高等学校における魅力ある学校の実現に向けて、現行の通学区域制度の在り方について検証するとともに、魅力ある学校づくりや、すべての地域の高校において質の高い教育を提供できる環境について検討するため、通学区域制度検証委員会（以下「検証委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 検証委員会は、大分県教育委員会教育長の諮問に応じ、次に掲げる事項について検討する。

- (1) 通学区域制度の在り方に関することについて
- (2) 地域の高校の魅力づくり及び教育の質の担保に関することについて

### (組織)

第3条 検証委員会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

- 2 検証委員会には、委員長1名と副委員長1名を置く。
- 3 委員長は、検証委員会の議事その他の会務を総括し、検証委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 5 委員長及び副委員長は委員の互選により決定する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から令和7年9月10日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (会議)

第5条 検証委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 検証委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めることができる。
- 4 委員は、会議で配布した資料等を、委員長の許可なく公開してはならない。

### (庶務)

第6条 検証委員会の庶務は、大分県教育庁高校教育課において処理する。

### (補則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検証委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が検証委員会に諮って別に定める。

### 附 則

- この要綱は、令和6年9月12日から適用する。
- この要綱は、令和7年1月29日から適用する。
- この要綱は、令和7年5月19日から適用する。

## 通学区域制度検証委員会 委員名簿

	所属・職	氏名	任期
委員長	国立大学法人大分大学 教授	住岡 敏弘	R6.9.12～ R7.5.30
副委員長	日本文理大学 副学長	吉村 充功	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県商工会議所連合会 会頭	吉村 恭彰	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県商工会連合会 会長	首藤 文彦	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県産業教育振興会 会長	石井 四郎	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県 PTA 連合会 会長	山田 弘樹	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県高等学校 PTA 連合会 会長	和田 俊二	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県市長会 会長（臼杵市長）	中野 五郎	R6.9.12～ R7.1.19
委員	大分県市長会 副会長（佐伯市長）	田中 利明	R7.1.29～ R7.3.31
委員	大分県市長会 会長（別府市長）	長野 恭紘	R7.5.12～ R7.5.30
委員	大分県町村会 会長（玖珠町長）	宿利 政和	R7.1.29～ R7.5.30
委員	自治会連合会 理事	疋田 忠公	R7.1.29～ R7.5.30
委員	大分県市町村教育長協議会 会長（大分市教育長）	栗井 明彦	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県市町村教育長協議会 副会長（別府市教育長）	寺岡 悌二	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県市町村教育長協議会 副会長（九重町教育長）	時松 栄子	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県高等学校長協会 会長（大分上野丘高校校長）	三浦 一雄	R6.9.12～ R7.5.30
委員	大分県中学校長会 会長（滝尾中学校校長）	上杉 洋一	R6.9.12～ R7.3.31
委員	大分県中学校長会 会長（南大分中学校校長）	河野 正行	R7.4.1～ R7.5.30
委員	大分県私学協会 理事長（大分中・高理事長）	小山 康直	R6.9.12～ R7.5.30

※ 役職等については、委員就任当時のもの

## 通学区域制度検証委員会 経過

	開催期日 開催場所等	協議内容等
第1回	令和6年9月12日(木) 県庁舎新館 133 会議室	○会議の趣旨及び論点について確認 ○全県一区のメリット、デメリットについて、客観的データをもとに分析
	令和6年11月28日(木) ～令和6年12月20日(金)	○「魅力ある学校の実現に向けたアンケート調査」実施
第2回	令和7年1月29日(水) 県庁舎新館 大会議室	○各市町村における進学先の傾向について、客観的データをもとに分析 ○生徒、保護者の全県一区の希望状況、高校選択の理由等について、アンケート調査の結果をもとに分析
第3回	令和7年3月27日(木) 県庁舎新館 大会議室	○地域の県立高校の維持・存続に必要なことについて協議
第4回	令和7年5月19日(月) 県庁舎別館 86 会議室	○「今後の通学区域制度の在り方」「魅力ある学校づくりに必要なこと」について協議 ○答申(案)について協議
答申式	令和7年5月30日(金) 県庁舎別館 教育委員室	○検証委員会委員長から県教育長に答申を提出

令和7年5月30日

大分県教育委員会  
教育長 山田 雅文 様

通学区域制度検証委員会  
委員長 住岡 敏弘

大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について（答申）

令和6年9月12日付けで諮問のありました、大分県立高等学校における魅力ある学校の実現について、別紙のとおり答申します。

